

### 「変わる事のない神のみわざ」

白河栄光教会 船田 肖二



キリストがわたしたちのために死なれたのは、さめていても眠っていても、わたしたちが主と共に生きるためである。I デサロニケ5・10

最近聖書を読んでいて、「やっぱり、神様って大きくて広い方だなあ」と心から思いました。これは知識によるものではなく、実感です。

ふりかえれば、いつの時代にも危機があり、戦いと迫害の中多くの血が流され、人々は生きるために戦うだけでなく必死に神を求めました。しかし世界はこの世の力と知恵によって押さえつけられ激しく攻められています。すなわち、どんなに見た目の平和が訪れても、人の心の中が平安で満たされるわけではありません。むしろ戦いがあれば悲しみと痛みでつつまれ、平和になれば罪の自覚が自分の心を責め苦めます。

神は、アダムから今に至るまで、人の罪とそ

の知恵の愚かさを示し続けてくださいました。また同時に、わたしたち一人ひとりに神の平安を約束してくださいました。それは、たった一度の生涯を、病や戦争や迫害、失敗や孤独を恐れながら生きるのではなく、十字架によってわたしたちを罪から解放し、永遠の命の希望によってこの世のあらゆる束縛から自由な者としてくださり、どんな時にも神が共にいてくださることの約束なのです。

わたしたちは何を恐れているのでしょうか？ 神から何を与えられていたか、忘れてしまったのでしょうか？ 神は共にいてくださいます。それは、たとえどんな罪や災害や事故による危機がそこにあつたとしても動かされることのない神の平安がしるしです。

今の世界の現状は、わたしたちの手に負えません。神の御手の中にあります。だからこそ神は、自らを主に献げる一人ひとりに神の平安を与え、この暗黒の世に輝かせてくださるのです。これからの時代を生きる子供たちや青年達が、神と共なる生涯を嬉々として生きている姿を思うと嬉しくてたまらないではありませんか。すべての人が生ける神を見上げて近づき、献身の生涯を共に生きるようにして下さることを信じて祈り続けます！

# 牧羊者

## 目次

巻頭言	1
目次	2
教師養成講座「♪さんび・・・まず、 あなたがいきいき！ No.5「雑感」」	3
キリストの教え ▲ 7 / 5 ～ 7 / 12 ▼	9
旧約⑥「王」 ▲ 7 / 19 ～ 8 / 30 ▼	21
キリストの教え ▲ 9 / 6 ～ 9 / 27 ▼	63
牧羊ひろば（大分福音キリスト教会）	87
カリキュラム	91
「牧羊者」のご購読・ご利用について	92
おわりに	92

### 〔凡例〕

1. 原語について：ギリシャ語は〔ギリ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。
2. 礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について  
こ：「こどもさんびか」、こ改：「こどもさんびか改訂版」（以上、日本キリスト教  
団出版局）、ホ：「教会学校・日曜学校 子どもさんびか」（日本ホーリネス教団出  
版局）、イン：「教会学校さんびか」（インマヌエル教会学校部）、ふ：「ふくいん子  
どもさんびか」、GS：「ふくいんこどもさんびか2 グローイング・ソング」（以  
上、日本児童福音伝道協会）、PW：「プレイズワールド」（リビングブレイズ）

# ミセス・グレースからあなたに ♪さんび・・・まず、 あなたがいきいき！ No.5 雑感

音楽工房 GRACE K&K 株

田中恵子（神戸中央教員）



いよいよ、最終回のようなです。最後を記念して、ふふ、雑感というタイトルにさせて頂こうかと思っています。取り留めもないことを思われたらごめんなさい。

この間、TVでダメな生徒はいない！ いるのはダメな教師だとききました。

さて、先生方、教会学校に來ているお友達の前と名前は一致したとして、その子をどれだけ知っておられるでしょう？

私は今、音楽教室を主宰し総括する役目を担っています。40人ほどの生徒さんを2人の講師が毎週教えてくれていますが、毎日のレッスンの後、私を含めて必ずミーティングをします。

そのミーティングでその日の子どもたちの様子、レッスンの進み具合、問題点、必要な共通の認識、指導の仕方についてなどを話し合います。あの子はよくがんばっていた、あの子は理解が早いなど良いところと反対に、あの子の態度が悪かった、練習があんまりできていなかった、遅れてきた、などのマイナス面も思いつくままに話します。どうしてもそんな態度になったのか、どうして練習してこなかったのか、遅れてきた理由は何か、そこまで考えます。もちろん、教師だけで理解できないこともありますし、親御さんに聞かないと本当の理由がわからないこともあります。

音楽のように心を楽器で表現するものは奏する者の気持ちばかりやすいですが、教会学校に來ている子どもたち

の気持ちは、なかなかわからないですね。まして、教会学校に来て、静かに座って一方的にお話を聞いて、帰る…。これだけでは、わからないですね。

その子どもとどこで接点を持ちましょうか？ まずは、その子どもが教会学校にやってきたとき、「よくきたねー！ まっていたよ！」と満面の笑みで大歓迎。「一週間元気だった？」「この間のお休みはどこかあそびにいったの？」「朝ごはんたべてきた？」「いい靴やね」「今日の髪型いいね」など何でもいいから声掛けから。

間違っても、一週間ぶりに会った教師の井戸端会議で盛り上がり、いつ、子どもが入ってきたかもわからないなんてことがないように。主役は、子どもたちですよ。じっくり、しっかり見ていると、子どもたちの表情が分かるはずです。

「どうしたの？ 元氣ないね。触れてほしくない子どもは、黙って（別になんでもないよ）と表情でこたえるかも。でも話を聞いてほしいなと思っている子どもは、すぐにでなくても徐々に（あのね…）と話し出すかも。先生方は、両手を広げて、ひとりひとりの子どもを受け止めてほしいと思います。

そうそう、子どもって自分を見てほしいという意識からよい子の反対動作をしますね。わざとふざけてみたり、いうことを聞かなかつたり、そんなことでお友達とケンカしないでもいいのということでもケンカになったり…。またあの子、トラブルメーカーと目くじらを立てるのではなく、子どもたちをじっくり見てやれば、きつといいところを発見できます。その良いところを基準におけば、手を煩わされることも許容の範囲に入るはずですね。

時間が許せば、子どもたちの下校時間、登校時間に教会の周りを掃除してみてください。遠くからでも「せんせい」と呼んで駆けてきてくれます。その時、一緒にいるその子のお友達や、送迎している親御さんにも会うことができます。「教会学校にいつも送ってくださってありがとうございます。教師の○○です」など自己紹介をするチャンスです。そしてコンタクトを取っておけば、訪問したり、キャンプの案内をしてもスムーズに事が進みます。一緒にいるお友達には、「○○ちゃんとまたおいでね」と一言かけておくことも忘れないでください。

そうそう、花の日には、学校にもいつもご苦労様ですとお花を届けましょう。誰ですか？ 日曜日は学校開いてい

ませんって？　そうですよ。だから次の日に行くのです。最近の学校は、セキユリティが厳しいですから、丁寧な言葉遣い、きっちりとした服装でインターホンの前に立ちましよう。対応に出てきてくださった先生には、丁寧に訪問の趣旨を伝えましよう。「どこどこ町の〇〇教会から来ました。昨日は、花の日子どもの日で、いつもお世話になっている方のところへお花をもつてまわっています。こちらの生徒さんの〇〇くんたちが教会学校に来てくれています。」と。

花の日だけでなく、運動会、音楽会、などの学校行事にも積極的に出向きコンタクトをとっておきましよう。学校の先生方だけでなく、父兄も「あつ！　教会学校の先生！」と反応を頂くはずですよ。

こんな時代だからこそ、教会の信用、教師の信用はとても大切です。皆さんは教会学校の、また教会の伝道営業マンです。「あそこに任せておけば大丈夫」の信用を勝ち取りましよう。今のNHK朝ドラの合言葉、地道にコツコツです。

さて、最終回ということで、あちらこちら話が飛びます

が、お許しください。雑感ということで、メッセージにいても少し触れさせていただきます。

皆さんの教会学校は、幼稚園から中高科まででしょうか？　それとも幼稚科から小学校まででしょうか？　クラスに分かれてのことはそれぞれの年齢に応じてできるのですが、全体のメッセージとなると照準をどこに合わせるのかが問題になりますね。

理解度の問題がありますから、集まっている子どもを見て、嬰兒科を除いて学年の低い方に照準を合わせましよう。異常に何もかも噛み砕いたことばを使う必要はありませんが、むずかしい熟語などは避けるようにしましよう。

視聴覚を用いる場合、十字架と字で書くより十字架のイラストを使う。ペテロさんと字で書くよりペテロさん風でなく視覚から入るものを準備するとお話がより心に届きやすくなります。

メッセージの導入部分に例話を入れる場合、皆さんはどのように話しておられるでしょうか？　子どもたちがお話を楽しんで食い入るように聞いてくれる先生になりたいですね。どうしたらいいのでしょうか？　ひとこと言えば、

恥も外聞も捨てる！です。

きれいごとを並べても子どもは、あーまたか、しんどい  
なと思っってしまうから、ごそごそ虫を出してきます。  
ぺちゃぺちゃ虫も持っています。ちよっかい虫もいます。  
小さい子どもは10分が限界です。しつかり座っておける子  
どもでも20分はきついです。

どうしたらいいでしょう。話す言葉に強弱をつけましょ  
う。緩急もつけましょ。

顔の表情もつくりましょ。大袈裟に笑いましょ、泣  
きましょ、動作をしましょ。

横は両手を精一杯広げた360度が手の動作の範囲です。縦  
は背伸びをして手を精一杯伸ばした範囲です。あなたの手  
のひらは顔と同じくらいの大きさがあるのです。その手の  
平を、指を大きく使ってみましょ。それだけで人を引き  
付けるあなたに変身です。

次は姿勢です。神様の言葉語る人が、何だか自信な  
さそうに背中を丸くしてとぼと歩いてるのはいけ  
ませんね。私の人生は神様によつて変えられた！君たち  
も早く神様信じてよ！という思いで立ちましょ。前に  
立つ人が堂々としておられるだけで会場には安心感が溢れ

ます。

ここで大事なことは、メッセージを堂々と語って頂きた  
いのですが、決して自慢話、強引なお仕着せにならないよ  
うにしてください。それから、熱を帯びて口角泡とばしま  
ンにならないようにしましょ。子どもたちからすぐニツ  
クネームがきますよ。

導入部分を参考までに。

みなさん、おはようございます。

今日はつそをついたペテロさんのお話をします。

……………何について話すかを先に宣言する。  
ペテロさんはこんな人でした。

……………イエス様とのかかわりを話す。  
……………どれだけイエス様に愛されていたかを話す。  
自分が一番イエスさまを愛していると思っていました。  
でもあるとき……

……………ペテロがイエスさまを知らない  
といった時のことを話す。  
その時、イエス様はどう思われたでしょう？

……………いくつか子どもたちの気持ちを聞く。

そつだね。きつと悲しいなって思われたでしょうね。  
さて、ここに……

……と小学生くらいの男の子の絵を出す。  
みんなと同じくらいの男の子○○くんがいたよ……。

○○くんもペテロさんのような時があつたんだよ……。

……え？ なになに？ 興味を引く。  
あるときね。お店に美味しそつできれいな飴玉が売つていてね……

……美味しそうな飴玉の絵を出す。  
ほしいなあと思つたんだけど、お財布の中が0円だね。残念だなあと思いながら帰つたの。次のおこずかいがもらえるまでにはまだまだ日にちがあつたの。頭の中は飴のことばかりがぐるぐる回つていたの。

……○○くんの頭にぐるぐると書いた円を置く。  
しょんぼりしてお家に入つてね、「ただいまー」

……がっかりしている声で。  
でも誰もいなかったの。ふとテーブルの上を見ると、100円が置いてあつたの。やつたー！

……やつたーの声は元気いっぱい。  
これであのいいしそつな飴が買える。それをぱつと握つて

お菓子屋さんに駆けていったの。

……走る真似をして。  
美味しい飴を2つ買つて両方のほつぺたに入れてルンルンつて

……頬を膨らませて嬉しそつに。  
鼻歌を歌いながらゆつくり食べながら帰つたの。

……男の子の口の周りにキラキラのシールを貼る。  
家に帰ると、お母さんが床に這いつくばつて何か探しているの。「ねえ、○○ちゃんここにおいていた100円知らない？」

……困つた様子で。  
「し、知らないよ。」

……ちよつと驚いた様子で。  
「へんねえ？ どこか転んでしまったのかしら。」

……さがしながら。  
「そつじゃない？ 一緒にさがしてあげるよ」

と平気な顔をしていたけど、心はどつきんどつきん。  
口から心臓が飛び出すんじゃないかと思つほどだったの。ばれたらどつしよつと思うとお母さんの顔を見ることができなかったの。



でもお母さんは気づいていたの。どっつてだと思っ？

……子どもに聞いてみる。

〇〇くんの口の周りに……水色やピンクや黄色い色が付いていたから。

ペテロさんもね、イエスさまを知らない、私は関係ないって言ったとき、きつと心がどつきんどつきんしていたと思うよ。

……と話を聖書に戻す。

そのあと、結論に持っていく……。

もちろん、聖書のお話しそのままで語ってあげるだけでもいいのですが、より身近に感じるために、噛み砕いたり、視聴覚を用いたり、時には先生たちの寸劇でもいれて、印象深く聖書の物語が心に残るようにしてはどうでしょうか？

それからみことば暗唱は、みことばそのものにメモデイーをつけて数回歌わせていくと、すつと子どもは覚えていきます。必要でしたら、お申し出ください。作りますよ。(笑)

子どもは誰も来ないから教会学校はありません。は、あ

まりに悲しいですね。教会の中で待っていませんか？ 外に出ていきませんか？ 教会学校でイベントを計画して、以前来ていた子どもに、まず、お手紙を書いて案内しませんか？ 訪問しませんか？ 学校に許可を頂いて、チラシを配らせてもらいませんか？

一つのイベントを計画するのではなく4週ほど続けてイベントをしましょう。それも子どもが喜ぶことを次々企画しましょう。大クレープ巻き大会、お菓子食べ放題大会、大ビンゴ大会、みんなで大ペイント大会……。ともかく何でもいいのです。子どもたちが教会に行きたい、行こう！と思ってくれるものを、先生方、一生懸命祈って考えて準備しましょう。一回やって子どもが来なかったからやめるなんてことしないで。そして、子どもたちとことん遊んで、楽しい、うれしいという思いを持ってもらうのです。

楽しく遊んで食べた後に、神様のお話をワンポイント。これ続けてみましょう。祈りながら、計画するとき、神様はきつと祝福してくださいます。

迷った一匹の羊を見いだす役目が私たちに課せられているのです。

完



# 聖書 マタイ11・28～30 テーマ 安息への招き

## 序論

(鎌野善三)

期題「キリストの教え」のもとに、7週にわたってマタイ福音書を取り上げる中の6回目である。弱い人、罪深い人を心から愛して、〈すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい〉と招いておられる主イエスの姿に焦点をあててみよう。

今週学ぶのは、主の言葉を受け入れる人とそうでない人とは次第に明確になってきた公生涯中頃の出来事である。福音を理解したのは、直前の段落に書かれているように、「知恵のある者や賢い者」ではなく「幼な子」だった。そして主が招かれたのは、律法の知識を誇るパリサイ人ではなく、律法の重荷に苦しんでいる人々であった。

## 一、わたしのもとにきなさい

次の章にも登場するパリサイ人をはじめ、当時の宗教指導者たちは、「重い荷物をくくって人々の肩にのせるが、それを動かすために、自分では指一本も貸そうとは

しない」(23・4)人々だった。彼らはモーセの十戒をのみならず、多くの伝承も含んだ様々な規定を守るように人々に要求した。それらは、彼ら自身でも守り通すことのできないものだったにもかかわらず、厚かましくも守っているような顔をしていた。そんな中で、自分の姿を正直に顧みる人ほど、この重荷に耐えられなかった。これは、あのパリサイ人パウロが経験していたことにほかならない(ローマ7・7～24)。

主イエスは、自分の罪を自覚した人々に向かって、〈わたしのもとにきなさい〉と招かれた。律法を守れない汚れた者とは交わってはならないという、当時のパリサイ人の既成概念をぶち壊されたのである。自分の汚れを知っている者にとつては何という福音であろうか。そのように招いてくださるお方だからこそ、〈あなたがたを休ませてあげよう〉という言葉も現実味をもって迫ってくる。

## 二、わたしのくびきを負いなさい

〈休ませてあげよう〉と言いながら、〈わたしのくびきを負〉いなさいと命じられるのは矛盾のように思えるが決してそうではない。くびきとは、2頭の牛や馬の首に

固定させて一緒に荷車や鋤すきを動かせるようにする道具である。つまり、今まで一人で負っていた重荷を、主が共に負ってくださるという意味なのだ。当然重荷は軽くなる。たとえ自分が弱い者であっても、あわれみ深い主イエスが共に歩んでくださるのなら、何と心強いことか。ただし、くびきを負ったなら、自分勝手に行動できないことも忘れてはならない。どんな時も主の思いは何かを考えて生活する必要がある。主イエスは、「わたしは柔和で心のへりくだった者である」と仰せられる。主は決して権力をふりまわす横暴な王ではない。このお方と共に歩むなら、自分の自由が失われないばかりか、その愛の中で喜びあふれて毎日を過ごすことができるのだ。

### 三、わたしに学びなさい

くびきにつながることは、一心同体となることである。柔和で謙遜けんそんな主と共に生活するなら、私たちの生き方も柔和で謙遜になることは、しごく当然のことだろう。「わたしに学びなさい」と主が言われたのは、そういう意味に違いない。主に学ぶとき、「魂に休みが与えられる」。律法を守ろうとする努力ではなく、主の愛の中で、主と

共に歩む平安が魂に満ちあふれるのだ。だから主は仰せられる。「わたしのかくびきは負いやすく、わたしの荷は軽い」と。律法の重苦しいかせは打ち壊された。主と共に、聖霊と共に歩むなら、自由意志をもって、喜んで神と人とを愛し仕える生活へと変えられる。あの悩めるパウロが、復活の主イエスと会ったのち一変し、患難・苦悩・迫害・飢え・裸・危難・剣をものもしないで福音宣教に励むことができたのは、主と共に歩み、主に学んだからにはかならない（ローマ8:35-37）。

### 結論

主はこの年頭にも、「わたしのもとにきなさい」と呼び掛けておられる。私たちはそれに応答して、喜んで主のもとに行き、主のかくびきを負う生活を始めることができるだろうか。もし、「くびきを負うのはまっぴらご免だ。自分一人で、自分の好きなように生きたい」と思うなら、あなたの生涯はだいたなしになる。私たちは自分一人で生かされるような強い者ではない。自分の弱さを認め、主と共にくびきを負って歩むとき、主のような麗しい姿に変えられていくのである。

## 研究資料

(中島啓一)

先に「わたしについてきなさい」(4・19)と弟子への招きをなされたイエスは、ここに新約の中で唯一「わたしのもとにきなさい」という直接的な招きをしておられる。この個所を解釈するときに、前後の文脈は非常に重要である。すなわち直前に「これらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子にあらわしてくださいました」(25)とあるように、神の国の福音は、その時代の賢者であるパリサイ人たちからは拒絶され、逆にその律法主義のシステムの中で軽んじられている人たちに受け入れられた。また続く12章ではまさにその律法主義の問題が扱われている。それらに挟まれたこのイエスの招きは、まさに律法主義の重荷を念頭に置いたものであったのである。

## テキスト

**28** **すべて重荷を負うて苦労している者** 前述のようにこの重荷は、律法主義の重荷である。律法主義のシステムは多くの人にとって極めて重いものであった。この呼びかけにはその重荷を人々に負わせているパリサイ人らへの批判も込められている。けれどもこの招きは、その

パリサイ人らをも含めたすべての人に向けられているのである。ここでイエスが律法それ自体を重荷と言っているのではないことに注意しなくてはならない。律法は詩篇119篇にも見られるように、神の民にとって喜び以外のなものでもないものである。ここで重荷とされているのは、律法そのものではなく、律法を表面的にししか解さず、時にはこじつけも伴った事細かな規定からなる、いわゆる律法主義であった。**わたしのもとにきなさい** パリサイ人たちが招くのは、あくまでも律法そのもののであったのに対し、イエスが招かれたのはご自身のもとにであった。**あなたがたを休ませてあげよう** 神がモーセに「わたし自身が一緒に行くであらう。そしてあなたに安息を与えるであらう」(出エジプト33・14)と約束されたように、イエスはご自身に来る者に安息を約束された。その安息は神の国の中にあり、それはイエスとのつながりを通してのみ得られるものである。

**29** **わたしは柔和で心のへりくだった者であるから** この描写はイザヤ書における主の僕しもべの姿(42、53章)や、ゼカリヤ書におけるメシヤ像(9・9)と共鳴している。イエスは旧約の預言の成就として来られた救い主であ

り、その姿はバリサイ人たちとは極めて対照的であった。彼らは己の誇りに執着し、名譽や称号を愛し、他者に対して權威を行使することを望んだ。それに対しイエスは、柔和で謙遜な僕として来られたのである。わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。ここで前節での招きの意味がより正確に示される。すなわちイエスの招きは、弟子への招き、つまりイエス自身とその教えとに従うことへの招きである。くびきとは、ユダヤ教と新約聖書の両方において律法を表す一般的な隠喩である。律法への従順を促す点では、イエスもバリサイ人も同じであった。異なるのは、イエスが招かれるのは、イエスの教えと人格を通して理解される律法にであり、それゆえにイエスは、律法主義のくびきと区別して「わたしのくびき」と言われたのである。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。この約束は「あなたがたの魂のために、安息を得よ」(エレミヤ6・16)との招きと呼応する。神がエレミヤ書で約束された安息を、イエスはご自身のもとに来る者に与えてくださるのである。その安息は、神に立ち帰り、神の意志に忠実に歩むことから来る安息であって、その意味でイエスの与えて

くださるくびきと同一であると言える。

30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。負いやすいくびき、軽い荷とは、逆説的な表現であるが、イエスのたまわる安息とくびきとが同一であるとするば理解できる。キリスト者は弟子としてのくびきを、神との交わりを得るために負うのではない(律法主義はそうである)。その交わりは、イエスをキリストと信じる信仰によってすでに与えられているのである。ただしイエスの招かれる弟子としての生き方が、簡単に犠牲も必要のないものであると誤解してはならない。広い道は滅びに至る道だとイエスは教えられた(7・13)。弟子となることは命をかけることであり、自己犠牲が求められることである。にもかかわらず、ただイエスが、恵みによって救われるという新しい時代をもたらしてくださったことのゆえに「その戒めはむしろかしいものではない」(Iヨハネ5・3)と言うことができるのである。

参考図書 D. A. Hagner (Word), D. Hill (New Century Bible), その他 Theological Dictionary of the New Testament, Vol. 2, ほか

## 聖書

マタイ11・28～30

## タイトル

イエス様といっしょに

## 暗唱聖句

すべて重荷を負うて苦労している者は、

わたしのものにきなさい。あなたがたを

休ませてあげよう。

マタイ11・28

## 目標

イエス様のもとに重荷をおろし、イエス様と一つにされて生きる。

## 導入

(後藤 真)

もうすぐ夏休みですね。終業式の日にお道具箱や絵の具セット、あさがおを植えたプランターなど、たくさん重たい荷物をかかえて学校から帰ったことを思い出します。家について荷物を下ろしたときのほっとした気持ちとはなんとも言えないものでした。

## 重い荷物

聖書の時代にも、重い荷物を背負って苦労している人がたくさんいました。もちろん、学校から帰って帰る荷物ではありません。それは、「律法」や「規則」という荷物でした。律法というのは、聖書の教えのことで、本当は神様が人間に与えた良いものでした。けれどもパリ

サイ人や律法学者たちは、聖書の教えを正しく受け止めず、たくさん規則を付け加えて、自分流の教えに変えてしまい、それを守るように人々に求めました。そしてそれを守れない人たちを、罪人と呼んで遠ざけ、つきあわないようにしました。

パリサイ人たちの教えにしたがって、律法や規則を守ろうとすればするほど、それが重たい荷物のように思えてきます。まじめな人ほど、苦しい気持ちになります。もし、教会にたくさん決まりがあつて、それを守らなければならなかったらどんな大変でしょうか。決まりを守れない人が仲間はずれにされたらどんなにさびしいでしょうか。

## イエス様のもとに行く

イエス様はそんな荷物を負って苦労している人、自分が律法や規則を守れないと分かって苦しんでいる人に、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのものにきなさい」と呼びかけます。イエス様の招きは、自分は罪人だ、みんなから仲間はずれにされているのだ、としよぼりしていた人たちには、とても力強い言葉でした。

イエス様は自分の力で重い荷物を背負いなさいとは言いません。「あなたがたを休ませてあげよう」と、言ってくださいます。自分の力で律法や規則を守ることができると高ぶっている人、本当はできないのにできるふりをしている人は、イエス様の招きが分かりません。わたしたちはどうでしょうか？ 自分の力で、聖書の教えを守ることができるでしょうか。それとも、守れないこともあるでしょうか？

### イエス様といっしょに

イエス様は「あなたがたを休ませてあげよう」と招きながら「わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい」といいます。くびきというのは、動物を畑で働かせたり、車を引かせたりするときに首につける道具です。（くびきの写真か絵を見せる）

くびきを負うということは、休むことではなくて、もっと苦労することではないでしょうか。そうではありません。イエス様はわたしたちをくびきにつないで、「あなしなさい、こうしなさい」と命令するものではありません。イエス様は「わたしのくびき（イエス様がつながれているくびき）」にいっしょにつながりなさいと招いてくだ

さるのです。わたしたちの荷物はイエス様がいっしょに背負ってくださいます。わたしたちはイエス様といっしょにくびきにつながれるとき、イエス様といっしょに生きたとき、魂に本当の休みがあるのです。

イエス様といっしょに生きるということは、荷物をおろして休むだけではありません。イエス様は、休むこととともに、イエス様から学び、イエス様に喜ばれる人になるように招きます。それは、イエス様がへりくだってわたしたちといっしょに生きてくださるように、へりくだってまわりの人たちに仕える生き方です。イエス様といっしょに生き、イエス様の気持ちを知り、イエス様の喜ばれることをする。そんな風に変えられてゆきたいと思えます。

心の荷物、苦しいこと、助けてほしいことがある人は、イエス様にお祈りして、安心をいただきましょう。そして、聖書のみことばからイエス様に学びましょう。イエス様に喜ばれる子どもになれるように、教会の友だちと励まし合い、祈り合いましょう。

♪もうふりむかない♪（PW18）



# 聖書 マタイ13・1～9、18～23 テーマ み言葉が実を結ぶために

## 序論

(金井信生)

イエスは多くのたとえをもつて神の国の真理を説き明かされました。この「種をまく人」のたとえの意味は、イエス自身が説き明かしておられます。

## 一、み言葉にある命

種まきがまく種とは、〈御国の言〉すなわち神のみ言葉です。そして種が芽生えるのは、種の内に命があるからです。この命には人を生かし、豊かに実を結ばせる力があります。「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きる」(マタイ4・4)との言葉は、人間を観察して得た結果ではありません。人間を造られた方による説明です。

イエスはまず〈種まき〉となつてみ言葉を語られました。それは自分の栄光のためではなく、私たちに命が必要だからです。

命は何もないところには生じません。必ず命から命が生れます。そして生れた命は、養われ守られなければ消

えてしまいます。私たちの命は神から与えられたものであり、神から離れたところでは保つことができません。神と言葉を交わす交わりの中でさらに豊かなものとされていきます。

## 二、時が試練

土地の状態そのものは、種が落ちた時点である程度わかります。しかし、神の言葉という種がまかれた人の心の状態は、すぐにわからないことがあります。しかし、どんな心であるかは、観察している中で、時間の経過とともに明らかになつてきます。

〈道ばた〉に落ちると、種は接触していますが、中に入ることはありません。これはみ言葉を聞いても自分に結び付けない人です。〈石地〉に種は入っていきますが、根を下ろすことはできません。み言葉を聞いて喜んでいますが、生き方を変えるつもりはありません。〈いばらの地〉の間では根を下ろし芽が出て、上に伸びることが妨げられています。み言葉が中心でも第一でもなく、他のことで心がふさがれているので、実を結ぶに至りません。

しかし、もし良い地に種が落ちるなら、種は入り込み、



しっかりと根を下ろし、充分に伸びて豊かに実を結ぶことができます。

み言葉に対するこれらの応答は、私たちが福音を伝える相手の状態であり、またかつての私たちの姿です。

聖書の時代の農業は、種をまいてから耕す方法だったとも言われています。土が薄く、日本のように畑と道がはっきりと分けられていないところに種をまき、後から耕したところが畑となって成長していったのです。この方が、み言葉と私たちの関係に近いかもしれません。

最初からよく耕された柔らかな心というものはありません。とにかく種をまき、耕すことが必要です。み言葉を聞き、日々の歩みの中で苦しんだり戦ったりする中で、み言葉の助けを得、やがて実りを得ることが多いのではないのでしょうか。

### 三、約束されている収穫

良い地であっても、種がまかれなければ収穫はありません。しかし、一度種がまかれると、最後の結果ははっきりと違ってきます。特にイエスはみ言葉の収穫は驚くほど大きいと約束されました。私たちもキリストを信

じ、み言葉を聞き始めても、最初から大きな変化はないように見えるかもしれません。しかし、み言葉を聞き続けるときに、必ず変わってきます。

ですから、できるだけやわらかい心、聴いて従う心をもつことが大事です。また、毎日の出来事の中で、み言葉をあてはめて、慰められたり、進む指針を得たり、あるいは自分の考え違いを示されること、これがみ言葉の種まきです。

まかれた種が収穫に至るには、時を要します。世話も必要です。しかし、み言葉の種がまかれなければ、人は生きられないのです。イエスが忍耐深く、み言葉の種をまき続け、ようやく弟子たちが整えられていったように、私たちも自分に対して、周囲に対して、種をまき続けましょう。豊かな収穫があると約束してくださった神は、必ずみ言葉を聞き続けるものを成長させ、祝福してくださいます。

### 結論

命の種である神のみ言葉を聞いて悟り、忍耐深く守って、豊かな実を結ぶ者となりましょう。

## 研究資料

(金井由嗣)

本日の個所の原文には、特に釈義に影響するような特別な用語や構文は見られない。原典にこだわるより、良質の翻訳聖書で前後の文脈に注意して繰り返し読むことが大切である。

## テキスト

1 その他 前章の記事との連続性を強調。マタイでは12・13・52が同じ安息日の出来事として描かれているが、マルコの並行箇所では間にいくつかの出来事が挟まれている。マルコは、それぞれのエピソードに対して類似した別の時期の出来事を関連付けて記しているのかもしれない。いずれにせよここでは、このたとえが語られた時期に注意する必要がある。パリサイ人や律法学者からの批判と疑い、主の家族からの無理解は、主イエスを神から遣わされたメシアと信じる弟子たちにとってつらい経験であった。群衆は主イエスのもとに集まっていたが、その多くは病気の癒しなどの奇跡や実利を求めている。少し前には(11章)バプテスマのヨハネさえ、イエスが本当にメシアなのか、と疑問を漏らしていた。弟

子たちは、神の国の福音が期待したようには多くの人々に受け入れられない現実を前にしていた。このような弟子たちに対する主の励ましと教育が、13章の一連のたとえの骨子をなしている。

3-9 種まきのたとえ たとえの意味は明瞭であり、その解釈も主イエスが自ら教えているとおり(18-23)なので、解説は不要である。

11 天国の奥義 これほどに説明が容易なたとえを、主イエスが「奥義」と呼んでいることに注意したい。たとえのそれぞれのモチーフが何を意味するか、頭で理解しただけではこのたとえの「奥義」を知ったことにはならない。それはなお、「聞いても悟らず、見ても認めない」鈍い心にとどまっている状態である。二つの側面から考察する。

1、「奥義」は、「天国」の性質にかかわっている。マタイは神の名を使用することを忌避するユダヤ人の伝統に従って「天国」と呼び変えているが、他の福音書で用いられる「神の国」と同義語である。当時のユダヤ人の「神の国」理解では、旧約聖書、特にダニエル書のイメージが支配的であった。それは地上の権力を無力化する圧

倒的な力をもって君臨すべきものであり、<sup>誰れ</sup>その力には抵抗できないはずであった(ダニエル2・44など)。ところが、このたとえでは神の国(天国)が人間の側の応答によって左右され、拒否され得るものとして描かれている(ハンター、ラッド参照)。それゆえ、重要なのはみ言葉を聞く者の聞き方と、聞いたみ言葉に対する応答の態度である。神の国は華々しく地上を支配するのではなく、多くの反対や無関心に出会いながら、福音を積極的<sup>あずか</sup>に受け入れた少数の人々の間で少しずつ成長し、やがて実を結ぶものなのである。この後に続いたとえ(麦と毒麦、からしだね、パンだね)によって、さらにこの点が強調される。

2、「奥義」には、知的な理解ではなく喜びと祝福が伴う。16〜17節で主が語っているのは、旧約の預言者や義人が熱心に願っても見聞きすることができなかった福音に弟子たちが与<sup>あずか</sup>っていることの喜びである。まかれた種の多くが実を結ばなかったとしても、「百倍、六十倍、三十倍」という当時の常識を超えた収穫の喜びが損失をはるかに上回ることになる。このたとえの焦点は、この収穫の喜びに当てられている。それはまた、11・25〜30

の主イエスの言葉と同じ方向を示している。「知恵ある者や賢い者」ではなく、み言葉を聞いて素直に受け入れる「幼な子」に神の国の奥義(福音)が啓示される。奥義を理解するために必要なのは知的能力ではなく、イエスの弟子として生きる、単純な信仰である。

12 持っている人は…いよいよ豊かになる 後の主イエスの説明で明らかのように、天国の奥義を持っている人とは、福音を素直に受け入れて従う主イエスの弟子たちのことである。この個所の彼らがそうであったように、福音に聞き従いつつ主に近づいていく人には、さらに福音の奥義が解き明かされる。それゆえ、聖書のみ言葉に対する知的理解も次第に備わっていくのである。それに対して、知的理解にとどまって本気で福音を受け入れない人には、み言葉はますます理解困難なものとなっていく、知的に理解することさえ不可能となってしまうのである。

参考図書 織田昭『マタイによる福音』、A・M・ハンター『イエスの譬えの意味』、G・E・ラッド『神の国の福音』、藤巻充『祝宴への招待』、J. Nolland (New International Greek Testament Commentary)、D. L. Turner (Baker Exegetical Commentary)。

聖書 マタイ13・1〜9、18〜23

タイトル  
暗唱聖句

豊かな実を結ぼう！

ほかの種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。マタイ13・8  
み言葉を聞いて悟り、忍耐深く守って、実を結ぶ者となる。

目標

導入

(飯田勝彦)

めぐみさんは、毎日電車で通学していました。ある時、悪天候のため電車が大変遅れてしまいました。すると駅の構内アナウンスがあり「今日は、ご迷惑をお掛けして申し訳ございません。ただいまバスを・・・」と声があったとたん、めぐみさんはアナウンスを最後まで聞かず、バスに乘ろうと急いで駅から飛び出しました。でも、バスはなかなか来ません。めぐみさんは、バスがすぐに来ると思って外に出ましたが、案内放送は「ただいまバスを用意しておりますので、もうしばらくお待ちください」とのことでした。案内を最後までよく聞かなかっためぐみさんは、寒い中バスを待たなければなりませんで

した。皆さんは、人の話を最後までしっかりと聞いていますか。

み言葉の種が蒔かれている

イエス様は、聞くことの大切さを教えるため、弟子たちに種まきのお話をされました。イスラエルの種まきは、豆まきのように種を畑にまくのです。

ある人が種をまきました。まいている間に、ある種は道ばたに落ち、鳥が食べてしまいました。

ほかの種は、石だらけで土の少ない石地に落ちました。そこは土が浅いので、すぐ芽を出しましたが、日が昇ると焼けて根がないために枯れてしまいました。ほかの種は、茨の間に落ちて茨が伸びて種をふさいでしまいました。でも、ほかの種は良い土地に落ち、ぐんぐんと成長して豊かな実を結ぶことができました。

蒔かれた種は、いろいろな土地に落ちました。

皆さんも野菜や花の種を蒔いたことがありますか？植物がちゃんと成長するために大切なのは、土です。いくら良い種をまいても土が悪いと育ちません。

イエス様が言われた種とは、「み言葉の種」です。そして、土とは「皆さんの心」です。皆さんは毎週教会に来

てみ言葉を聞きます。それは、神様がいつもみ言葉の種を皆さんの心にまいているのと同じです。

### 種はどこに落ちてますか？

神様のみ言葉の種は、どんな心に蒔かれていますか？道ばたとは、み言葉を聞いても、右の耳から左の耳に抜けて、すぐに忘れてしまう心です。石地とは、み言葉を聞いて「よいお話だった」と喜んで受け入れますが、それをしっかりと心に留めないで、苦しいことや悲しいことがあるとすぐつまずいてしまう心です。茨とは大切なものを大切にしないよう妨げる、誘惑に負けてしまう心です。

良い土地とは、み言葉を聞いて悟る心です。毎週、皆さんはどのような心でみ言葉を聞いていますか？

### 豊かな実を結ぶ

旧約聖書に「聞け、イスラエルよ」という大切な言葉があります。神様は私たちが、神様の言葉をしっかりと聞くことを願っておられます。

毎週、聖書のお話を聞きますが、皆さんは「僕には関係ないなあ」、「そんな昔の話、わたしは興味がない」と別のことを考えながら聞いてはいませんか。また、み

言葉を暗唱してその時は覚えていても、教会学校が終わると「あれ、今日のみ言葉何だったっけ？ まっいつかあゝ」。なんてことないですか。

聖書のみ言葉を神様の言葉として聞きましょう。そして「このみ言葉は、僕にどのような意味があるのだろうか」とか「神様は、わたしに何を教えるようとしているのだろうか」という心で聞きましょう。そうするなら、み言葉の種がみなさんの良い心の土地に蒔かれて豊かな実を結びます。その豊かな実とは、神様の祝福によって、愛の人にされることです。神様がみ言葉を通して結ばせてくださる愛の実によって、自分だけでなく周りの人たちをも幸せにします。

### まとめ

神様は、皆さんに愛の実を結ぶ人になって欲しいとみ言葉の種をまきます。柔らかに教えられやすい心で聞きましょう。

さて、今日のみ言葉は、良い土地に蒔かれたでしょうか。

♪みことはよくきいて♪ (ホ129)

# 聖書 サムエル上15・10〜23 テーマ 従順の祝福

## 序論

(鎌野善三)

サムエルは成長し、預言者としてイスラエルの国を長く指導した。彼が老齢になったとき、民は後継者を求め、神を知らない他の国々と同様に、王が欲しいと願った。そこでサムエルは、神の許しもあったので、王を立てた(8・19〜22)。それが今週登場するサウル王である。だがサウルは、サムエルのように神に忠実ではなかった。彼は、王に即位した直後、すでに主の命令に従わず、自分勝手に燔祭をささげている(13・8〜14)。これ主の求められる生き方ではない。今週のテキストを通して、神のみまえで重要なのは、聞き従う信仰であることを学んでみよう。

## 一、王だからこそ聞き従うことが重要

サウルは勇敢な王だったので、ペリシテびとをはじめとしてイスラエルを苦しめていた敵を打ち破り、すべて向かう所で勝利を得た(14・47〜48)。さらに神は、出エジプトの時にイスラエルを苦しめたアマレクを撃ち、「そ

のすべての持ち物を滅ぼしつくせ」とサウルに命じられた。だが彼は、王アガゲをいけだりにし、また「すべての良いものを残し、それらを滅ぼし尽すことを好ま」なかったのである(15・1〜9)。

〈滅ぼし尽す〉ことは、現代人の目から見れば残酷なことのように思える。しかし、これは神のものを神のものとし、「全滅させて人の用には使わせない」(新聖書注解)ことだ。「聖絶」という新改訳聖書の訳語が、より正しい意味を示している(詳しくは研究資料を参照)。

主の命令に従わなかったサウルを、サムエルは、「あなたはイスラエルの諸部族の長ではありませんか」としつ責めた。王たる者が民に模範を示さないことは非常に悪いことだ。王に一番必要なのは、敵を打ち破ることではなく、神に従うことなのだと、サムエルは言おうとしたのであろう。

## 二、使命を果たすために聞き従うことが重要

さらにまたサムエルは、「主はあなたに使命を授け」と言う。アマレクびとを滅ぼし尽くすことは、サウル王に授けられた使命だった。イスラエルの長い歴史の中で、「滅ぼし尽す」ことが命じられたのはカナン先住民族に



対してだけである。神のご計画を実現するために、サウルは選ばれ、王とされた。それを果たさないことは、神のご計画よりも自分の考えを勝つたものとするにほかならない。神から授けられた使命を、自分勝手な考えで遂行しないことは、神の思いを人間的な手段で知ろうとする占いの罪や、自分の好むものを神とする偶像礼拝の罪に等しいことだ。

聖書には時々、「神はなぜこんなことを命じられるのか」と思えることが書かれている。ギデオンに対する「兵を少なくせよ」という命令もその一例だろう。しかし、そこには神の計画があった。ギデオンの使命はそれを実現することだった。使命を果たすためには、命令の意味がその時はわからなくても、それに従うべきなのだ。

### 三、燔祭や犠牲よりも聞き従うことが重要

サムエルのしつ責に対して、サウルは「主にささげるため、ぶんどり物のうちから羊と牛を取りました」と弁解した。主のために用いるなら、主の言葉に従わなくても良いと思っていたのだろうか。しかし、滅ぼし尽くすべきものは、もともと神のものであるから、それを神にささげることなどできるはずもない。あるいは、ささげ

物の一部は、あとで自分たちのものになるという欲心が背後にあったとも考えられる。

（従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる）という聖句は、すべてを明快に説明している。どんなささげ物よりも、聞き従うことのほうがはるかに勝っているのだ。神は牛や羊の脂肪を食べて喜ばれるのではない。神が喜ばれるのは、ご自分の思いを理解し、それに聞き従って行動する人間なのである。

一万円を献金するなら、礼拝に出席しなくても良いなどと考えるはならない。献身のみ声を聞きながら、従えないでいることはないだろうか。主は、聖書のみ言葉に聞き従う者を、最も喜ばれる。

### 結論

「自分では小さいと思っても、あなたは教会学校教師ではありませんか」と、主はお語りになっている。教師がまず模範にならねばならない。神の言葉があなたに臨むなら、それに聞き従うことを第一としよう。そこにあるあなたの使命がある。それは、どんな多額の献金や、この世における地位・名誉よりはるかに勝つたものなのである。



## 研究資料

(長田榮二)

周囲の国々同様に王を求める民の要求を契機として、イスラエルの歴史に王制が始まった(8・5)。しかし、最初に立てられたサウル王は、神の民を治める王としては不資格であることが露わになっていく。最終的にサウルが王位から退けられることについて決定的になったのが、今回取り上げられる出来事である。

アマレク人はかつて荒野を旅するイスラエルの民を攻撃したことのため、やがて滅ぼされるべきことが神によつて告げられていた(申命記25・17-19)。「滅ぼしつくせ」とのご命令は過酷とも思えるが(15・3)、あくまでも罪を犯した民族に対する罰としての命令であり(15・2)、同様の扱いをすべき民族は限定されていた。

## テキスト

11 悔いる 「悔いることはない」(15・29)と言われる神が「悔いる」とは、判断を誤ったのではなく、人の選択によつて神の扱い方が変わることを意味する。わたしに従わず サウルの行動の問題の中心点。サムエルは

怒って 心の激情を示唆する表現。神の御心とご計画が妨げられたことへのサムエルの心痛を表わす。

12 戦勝記念碑 戦いの勝利に高揚していたサウルの心情が表われている。

13 わたしは主の言葉を実行しました サウルは、不従順であつたことに自ら気づいてさえないかつた。

14 この羊の声と…牛の声 サムエルはまず、サウルが実行していない部分に目を向けさせる。

15 人々が…民は 不従順を指摘されたサウルは、とつさに事の原因は「人々」「民」にあり、自分にはないことを示そうとする。実際には、サウルも彼らと一緒にたつて行動していた(9)。また、たとえ民の発案であつたとしても、彼は王としてそれをとどめ、主の言葉を忠実に果たしていく責任があつた。主にささげるために 良いことのためであると、動機の正当性を示そうとする。

16 おやめなさい 主が不従順を示そうとされるとき、弁明は不要であり、必要なのは率直な悔い改めである。

17 たとい、自分では小さいと思つても 立場に伴う責任を自覚しないことは、謙遜ではなく責任放棄。

18 滅ぼし尽せ 「滅ぼし尽す」(新改訳では「聖絶する」)

と訳される「ハーラム」は、本来神の独占物とするとの意であって、残しておいて自分たちの所有とすることは許されない。

19 ぶんどり物にとびかり 民は、羊と牛の内つまらない物だけを滅ぼし、肥えた良い物は残しておいた(9)。

「とびかり」との表現は、彼らの心の中にあつたのが貪欲であつたことを表している。燔祭以外の犠牲のいけにえは、一部をささげた後、人間の分として下げられた。

20 わたしは主の声に聞き従い：滅ぼし尽しました。ここに至つても不従順があつたことを認めようとする。

21 民は…主にささげるため 羊や牛を生かしておいたことは、民がしたことであり、また、主への犠牲のためだと、既になされた弁明を繰り返す(15)。

22 主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。サウルの

弁明点の一つは、「主にささげるため」ということであつた(15、21)。たとえ本当にささげたとしても、それは貪欲からのことであり、主に対する不忠実、不従順の事実に変わりはない。犠牲の供え物は、神への従順と献身が

あつてはじめて意味のあるものである。後の預言者たちは、犠牲の動物が罪に満ちた生き方を正当化せず、そのような犠牲を神は憎みさへすることを指摘した(イザヤ1・11、15、エレミヤ6・20)。

23 そむくことは占いの罪に等しく、強情は偶像礼拝の罪に等しいからである 占いと偶像礼拝は、共にカナンびとに蔓延していた罪であり、これらの罪のゆえに彼らは滅ぼされた(申命記8・19、18・9、14)。神に背き、強情な心で神に従おうとしないことは、それらの罪にも等しいものである。あなたが主のことは捨てたので、主もまたあなたを捨てて、王の位から退けられた サウルへの最終宣告。主がサウルを王位から退けたことは、サウルが主の言葉を軽んじ、退けたことに対応するものである。

参考図書 榊原康夫「サムエル記」『新聖書注解・旧約2』、J. G. Baldwin (Tyndale)

## 聖書

サムエル上15・10～23

## タイトル

神様に喜ばれる生き方

## 暗唱聖句

見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。

サムエル上15・22

## 目標

神が従うことを何よりも喜ばれることを覚え、従順の生涯を送る。

## 導入

(松浦みち子)

皆さんはイスラエルの民がモーセに導かれてエジプトの国を出たお話を聞いたことがあるでしょうか？ モーセは長生きして120歳で死にました。その後、色々の人がリーダーになりましたが、今日は、預言者サムエルが神の言葉を聞き、イスラエルの人々を治めている頃のお話をしましょう。

## イスラエル最初の王さま

ある時、イスラエルの人々は年老いたサムエルの所にやってきて、「サムエル先生、私たちもほかの国のように王様がほしいです！」と言いました。サムエルが神様にとりなしの祈りをしたところ「みんなの言うとおりにし

てあげなさい。」と答えがありました。神様の命令に従いサムエルはサウルという青年に油を注いでイスラエルの王としました。サウルは背も高く、とてもりっぱな勇敢な王様でしたが、ほかの国の王様のように、自分の好きなこととしてよいわけではありません。イスラエルの本当の王様は神様ですから、神様のおことばに従って人々を治めることがサウルの役目でした。

## 神に従わなかったサウル王

サウル王は初めのうちは、神様と預言者サムエルに従いながら、イスラエルの国を治めました。神様の力を注がれて戦争にも勝利しました。しかし、だんだん神様を忘れるようになってしまいました。口では「神様、助けてください」と祈るのですが、心から神様を信頼する心が薄れていきました。

アマレク人と戦争になった時のことです。サムエルはサウル王に神の言葉を告げました。「神様の命令です。あなたはアマレク人と戦わねばなりません。そして、そのすべての持ち物を滅ぼしつくしなさい。大人も子どもも、牛も羊も家畜全部を殺しなさい。」「はい、わかりました」。サウル王はさつそくアマレク人と戦いました。

神様の約束どおりにイスラエルは勝利しました。そして、神様の命令どおりにアマレク人の物や家畜などを焼き始めました。しかし、サウル王は丸々と太った羊や牛をもったいないと思つて残しておき、値打ちのない、つまらない物だけを焼き尽くしました。

### 王座から追放されるサウル王

神様はサウル王のしたことをすべて見ておられました。神様はサムエルに語られました。「わたしは、サウルを王にしたことを悔いる。彼がわたしに背いてわたしに従わず、わたしのことを行わなかったからだ」と。サムエルはサウルのしたことを怒り、一晩中、神様に祈り、次の日朝早くサウル王に会いに行きました。すると、サウルは平気な顔で「先生、わたしは神様のことを実行しました」と言いました。その時、どこからか「モォー、モォー、メエー、メエー」という鳴き声が聞こえてきました。「王様！ あなたは本当に神様の命令に従ったのですか？ あの鳴き声は何ですか？」「ああ、あれは家来たちがアマレク人の所から神様におささげしようと思つてきたものです。とても良いものだけを残しておいたのです。あとは全部焼き滅ぼしましたよ。」と答えました。

「王よ！ あなたは神様に選ばれてイスラエルの王様となったのですよ。神様はあなたに使命を授け、つかわして『アマレク人を滅ぼしつくせ。全部を焼き滅ぼせ！』と命じられたのに、なぜ、従わないで、ぶんどり物にとびつき、主の目の前に悪を行ったのですか？」ときびしく叱りました。するとサウルは、「サムエル先生、わたしは主の声に聞きアマレク人を滅ぼしつくしました。しかし、民たちが、神様へのささげものにするために、良いものを取っておいたのですから、よいではないですか。」と言いました。サムエルは、きっぱり言いました。「神様はどんな立派なささげものよりも、神様に従うことをいちばん喜んでくださいます。あなたは神様のことを捨て従わなかったのです、神様もまたあなたを捨てられ、王の位から退けられました」と。

皆さん、神様が何よりも喜ばれるのは神様のことを守つて従う心です。神様のご命令に対して言い訳をしたり、自分の考えで行動するようになったサウルは王にふさわしくないと、王座から追放されました。どんな時も神様に従う光の子どもになりましょう。

しゅにしたがうことは（こ改19、こ53、ホ87他）

# 聖書 サムエル上16・6～13 テーマ 心を見られる神

## 序論

(福井文彦)

イスラエルの最初の王であるサウルは、神への不服従のため主から捨てられました。サムエルはこのことをひどく悲しみましたが、いつまでも悔やみ続けることは許されませんでした。現実にはサウル王がまだ支配しているにも関わらず、神は次の王を選ぶようにサムエルに命じられたのです。そこで選ばれたのがダビデだったのです。

## 一、人の選び

サムエルは神がサウルを捨てられたことを悲しんでいました。すると、「あなたをベツレヘムびとエッサイのものとつかわします。わたしはその子たちのうちにひとりの王を捜し得たからである」(1)と告げられたのです。そこで、サムエルはベツレヘムびとエッサイのところに出かけました。

主は、サムエルに、どの息子に油そそがれるかを明らかにしておられませんでした。エッサイの息子たちを見た時、サムエルは直感的に、神が選ばれたのは長男エリ

アブであると思ったのです。彼は背が高く、外見的には申し分がなく、王者の風格があったからです。年老いた父親も選ばれるのは長男であると考えていました。

ところが、主はサムエルに「わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る」と言われたのです。そこでエッサイはアビナダブを呼んでサムエルの前を通らせました。するとサムエルは「主が選ばれたのはこの人でもない」と言いました。そこでエッサイはシャンマを通らせましたが、サムエルは「この人でもない」と言いました。エッサイは七人の子にサムエルの前を通らせますが、サムエルは「主が選ばれたのはこの人たちではない」と言ったのです。

## 二、主の選び

神はこの家族を指示されたのに、その中に王に選ばれる者がいないなどということがあり得るのだろうか、サムエルは一瞬思ったことでしょう。そこでサムエルはエッサイに「あなたのむすこたちは皆ここにいますか」と尋ねました。するとエッサイは「まだ末の子が残っていますが羊を飼っています」と答えました。彼は、兄たちがいけにえの食事を楽しんでいる間、羊の番をしてい

たのです。

この末の子がダビデです。彼がいけにえの席に呼ばれなかったのは未成年者はいけにえの食事の席につかないというしきたりのためかもしれません。しかも、羊を飼うことは、その家の最も大切にされていない家族が召使がする卑しい仕事でした。ですから、彼は家族の中でそれほど気に止められていない一員であつたと思われます。

しかし、神が人をお選びになる時、「外見」は関係ありません。神にとつて問題なのは「心」です。それで、〈わたしが見るところは人と異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る〉と言われたのです。その意味は、「人は自分の目に従つてものを見るが、神は御自分の心に従つて見られる」と言うことです。人間の弱さを知り尽くしておられるお方として、あわれみに満ちた心によって見られた結果、ダビデを選ばれたのです。

### 三、心を見られる神

ダビデへの油注ぎと同時に、主の霊がダビデの上に激しく下りました。後にサウル王の侍従となり、ゴリアテとの戦いで勝利し、名声は全国にとどろきました。しか

し、このために王のねたみを買ひ、ここからダビデの苦難の生活が始まったのです。十数年の苦難の後、ギルボア山頂でサウル王が戦死し、ダビデは王となります。そして、エルサレムを礼拝の中心として、政教一致をはかり、敵国を徹底的に撲滅し、王国の拡張と繁栄をもたらします。彼の成功の秘訣は、ただことごとくに主に聞いて行うことでした（サムエル下5・17～25）。

しかし、このダビデにも失敗がありました。バテシバの事件、子どもとの血を血で洗うような争いです。また晩年ダビデの行った人口調査は神の怒りと裁きを招きました。ダビデは偉大な指導者でしたが、このように完全無欠ではありませんでした。しかし、絶えず砕かれた心をもつて悔い改め、神の赦しと恵みにあずかりました。それゆえに、神に愛されたのです。神は心を見られますが、偽善でない心、砕かれた心、混じりけのない純粋な心で神を求める人を喜ばれるのです。

### 結論

心を見られる神に喜ばれる秘訣は、キリストの血に対する信仰（ヘブル9・13～14、Iヨハネ1・7）と純粋な心で神を求めることです。



## 研究資料

(宮澤清志)

先週より、サムエル記の物語を取り扱っている。特に、先週の個所ではサウルが王位から捨てられた物語が語られた。神がサウルを王位から捨てられたのは、彼が主の言葉を捨てたからなのだが(15・23)、神はすでにサウルを王位から退けられたと同時にひとりの人をエッサイの子たちのうちから選んでおられた(16・1)。それが本日の物語の中心である。

さて、本日の聖書の個所は6節からであるが、この個所は1節から始まる。サムエルはサウルの失敗をいつまでも悔やみ続けていることはゆるされなかった。主はサウルを退けるだけで、王位自体の存続については御心を変えることなく適材を探し求められたのである。

一方サムエルは非常に恐れた。なぜなら、このことがサウルに見つかれば殺されてしまうのではという恐れがあったからである。しかし、天の下のすべての事は、神のイニシアティブのもとで進行する。私たちの信仰は、このイニシアティブをとられる神に全権を明け渡し、注意深く、かつ大胆に従っていく信仰でなくてはならない。

本日の中心であるダビデへの油注ぎの個所も、神がイニシアティブをとられた典型ともいえる個所であり、その従い方は、形だけの従い方ではなく、心からの従い方ではなくてはならないのである。

## テキスト

6 エリアブ 「神は父」という名。サムエルは、エリアブの美丈夫さに強い印象を受け、彼こそが油注がれるにふさわしい人物であると判断した。

7 顔がたちや身のたけを見てはならない サウルが誰よりも背が高かったこととの意図的な対比が語られているのかもしれない。しかし、この容姿が、彼が適任であることを妨げるものではない。外的な容姿それ自体は神からの好意のしるしである(9・2、10・23のサウルの姿や12節のダビデの姿を参照)。わたしが見るところは人とは異なる 直訳は「人が見ることではない」この言葉は預言者の格言となったのである(歴代上28・9参照)。人は外の顔かたちを見、主は心を見る サウルは誰しもが賛美する背の高さ、美しさによって選ばれたが、ダビデは「心を見る」主によって選ばれた。

10 七人の子にサムエルの前を通らせた サムエルは



エッサイの7人の息子を年齢順に通らせたのであろうが、その誰も、主はお選びにならなかった。具体的に、サムエルは神意を伺うのにどのような方法を取ったのかは定かではないが、彼はサウルを選ぶにあたってはくじを用いた(10・20参照)。よって今回もくじを用いて神意を伺ったであろうことは推測できる。こうして彼はこの7人の息子のほかにも子がいたのであろうと推測したのであろう。なお、この当時の神意を測る一般的な方法は、くじであった。

11 **まだ末の子が残っていますが羊を飼っています** 父エッサイがダビデをこの席に呼ばなかったのは、当時のしきたりで未成年者はいけにえの食事の席にはつかなかったということが考えられる(5節には、サムエルがこの席を設けた理由が語られる)。しかし同時に羊を飼うことは、その家の最も大切にされていない家族が召使に託された卑しい仕事であった。

12 **血色のよい、目のきれいな、姿の美しい人** ここに、いわゆる「紅顔の美少年」という言葉を当てはめるべきではない。当時、こうした外見上の美しさは神の恵みと考えられていたし、サウルもまたそうであった(9・2)。

しかし、聖書における美しさとは、外形上のことだけでなく、優美な魅力と強い意欲、行動をも伴ったものであった。イザヤ53章の主イエスのお姿をここで思いめぐらすことは必要なことであろう。

13 **彼に油を注いだ** 旧約聖書においては、王と祭司は頭に油を注がれる行為をもつて就任した。この油注ぎは、神の代理者をもつて行われた。この「油注がれた者」が神の民を統治するとき、神は油注がれた者を通して王権を行使されたのである。その結果、**主の霊は、はげしくダビデの上に臨んだ** 将来において何が待っているようにとも、神の備えがあるということの確信となり、また保証ともなった出来事であった。

なお、この言葉とともに、次節の「主の霊はサウルを離れ…」という言葉も同時に思いめぐらすべき言葉である。

**参考図書** ジョイス・G・ボールドウィン『ティンデル聖書注解 サムエル記』、榊原康夫「新聖書注解 旧約2『サムエル記第1』」(以上のちのことば社)、山我哲雄「新共同訳旧約聖書注解Ⅱ『サムエル記上』」(日本基督教団出版局)他

聖書 サムエル上16・6～13

タイトル 心を見られる神様

暗唱聖句 人は外の顔かたちを見、主は心を見る。

サムエル上16・7

目標 心を見られる神に喜ばれるよう生きる。

### 導入

(松浦みち子)

暑い夏の果物の王様は、スイカですね。おいしいスイカを選ぶのは意外とむずかしいですよ。店先に並ぶスイカの色かたちはもちろんのこと、コンコンと軽くたたいて中の様子を調べます。これでよし、と買ってきて、さて食べようとしたとき、中にスが入っていてがっかりすることがあります。わたしたちは外側の見た目で多くのことを判断しがちですね。人間を見る目もそうです。しかし、ちょっと待ってください！ 人目につかないで黙々と歩む人の中に大きな力が潜み隠されていることがあります。今日はそんな人のお話です。

### エッサイの子どもたち

ある日、神様が預言者のサムエルに語られました。「サムエルよ。わたしはイスラエルの国の新しく王になる人

を見つけました。ベツレヘムに住むエッサイの子たちの中にいます」と。神の声を聞いたサムエルはさっそくベツレヘムへと出かけました。するとエッサイは七人の息子たちを連れてサムエルに会いにきました。エッサイは長男から順番に息子を紹介しました。「これが長男のエリアブです」。サムエルは彼を見て、一目で気に入りました。「おお！ 背も高いし、きりっとした顔立ちをしている。頭もよさそうだし、これが王様になる人だ」と思いました。しかし、神様はサムエルに「顔かたちや背の高さなど、見た目で決めるはいけません。わたしは人の心を見て決めるのです」とおっしゃいました。二番目の息子、三番目、四番目と続き、七番目の息子までサムエルに会いました。しかし、神様は「この人ではない」「この人でもない」とおっしゃるのです。いったい、どうしたことでしょう。神様はエッサイの息子の中におっしゃったのに。

### 羊飼いの少年ダビデ

サムエルはエッサイに尋ねました。「あなたの息子さんは、これで全部ですか？」「いいえ、もう一人いますが、末っ子のダビデは野原で羊の番をしています。サムエル

は「すぐにその子連れてきてください。その子にも会いましょう」と言いました。しばらくすると末っ子のダビデが走ってやってきました。日に焼け、いかにも健康そうです。目がキラキラ力強く輝き、元気いっぱい少年でした。「こんにちは！」と元氣よく挨拶をした瞬間、神様はサムエルに「わたしが選んだのは、この子だ。さあ、この子に油を注ぎなさい」とおっしゃいました。サムエルは、神様のおっしゃるとおりダビデに油を注いで、祝福の祈りをしました。何のことかさっぱりわからないダビデは目をパチクリするばかりでした。しかし、この日から、ダビデには神様の霊が豊かに働くようになり、日々の歩みを祝してくださいました。ダビデの油注ぎは、王として神様に選ばれた印でしたが、サムエルのほかはまだだれもその意味を知らませんでした。

### その後のダビデ

ダビデは油注ぎを受け、選ばれたからといってすぐに王様になったわけではありません。サムエルが帰った後、また野原に行き、羊の番をしながら過ごしていました。ある時は、たて琴を奏しながら神様を賛美しました。夜の野宿の時には、空いっぱい星を見ながら、神様の偉

大さに心ふるわせました。そんな平和な日々が続いたのではありません。その後、さまざまな試練に会いました。ある時は、命を狙われ、死の一手手前まで追い詰められたこともありました。しかし、神の賜物と召しとは、変えられることがあります（ローマ11・29）。金が純金となるために何度も炉の中を通されるように、ダビデは神様の訓練を受けました。神様は、ダビデの主に従う信仰や忠実さ、熱心さをごらんになりました。やがての時、ダビデは全イスラエルを統一し、国を建立する王として用いられたのです。

最後に、いつも叱<sup>しか</sup>られてばかりで、自分に自信のない人へ。こんな人がいたらがっかりしないでください。人の評価と神の評価は異なります。学校の成績もあまり気にすることはありません。「くまのプーさん」作家のミルンさんは通信簿に「ひどい出来だ。彼はまったくやる気を見せない」と書かれたそうです。しかし後に世界中の子どもを喜ばせる作家となりました。神様はあなたを愛しておられます。心を見られる神様に喜ばれる歩みを見ましょう。やがての時あなたを用いて下さい。

♪こどもよどこをみてる♪（ふ22）

# 聖書 サムエル上17・31～49 テーマ 大きな困難に立ち向かう

## 序論

(福井文彦)

この箇所は、多くの人たちが良く知っているダビデとゴリアテの物語です。サムエル記上の中で最も有名で、この書の中心部分でもあります。これは単に、若者ダビデがイスラエルの恐れていたゴリアテを倒して勝利したという物語ではなく、ダビデの信仰による勝利です。

## 一、ゴリアテの挑戦

イスラエルはエラの谷でペリシテと対峙<sup>たいじ</sup>していました。その時、ペリシテの中から、ガテのゴリアテが戦いを挑むために出て来て、四十日間、朝夕叫びました。彼は両軍が戦うよりもそれぞれ一人ずつ代表を選び決着をつけようと提案したのです(8～9)。

ゴリアテはペリシテ人の代表戦士であり、無敵と考えられていました。ですから、イスラエルの軍勢は震えながら、彼が大きな叫び声を上げるのを聞いていただけでした。イスラエルのだれ一人、その挑戦を受けて立つことができなかったのです。

ダビデは父エッサイの命令で、戦場にいる兄たちの安否を知るために、イスラエルがペリシテと対峙している戦場に来ました。そこで、ゴリアテの威嚇<sup>いかく</sup>する叫びを聞き、それを非常に恐れているイスラエルの人たちを見ました。しかし、ダビデは、誰<sup>だれ</sup>であれ、いかに強くとも、イスラエル(の神)が侮辱されることに怒りを感じたのです(26)。

## 二、ダビデの挑戦

ゴリアテの挑戦に対して戦おうとしているダビデを、サウル王は呼び寄せて確かめました。するとダビデは「だれも彼のゆえに気を落してはなりません。しもべが行つてあのペリシテびとと戦いましょう」と大胆に申し出たのです。彼は、これは神とペリシテ人との戦いであり、むしろ、この挑戦を神の御力を証明する好機とみなしたのです。

しかし、サウルは「あのペリシテびとと戦うこととはできない」と止めました。というのは、サウル王の目には、軍人で見えるからに強そうなゴリアテと違い、ダビデは若年で戦争の経験がなく弱々しく映ったからです。そこでダビデは、しし、あるいはくまが来て、小羊を取った時、

しし、くまを撃って、小羊をその口から救い出した経験話を話しました。この神はダビデを、ししやくまから救い出したお方であり、生きておられるがゆえに常に救うことができるのです。それゆえダビデは「主は、またわたしを、このペリシテ人の手から救い出される」と確信できたのです。この力強い神の守りの証しを聞いたサウル王は安心し、ダビデがゴリアテと戦うように、「行きなさい」と送り出しました。

### 三、信仰の勝利

そこで、サウル王は「自分のいくさ衣をダビデに着せ、青銅のかぶとを、その頭にかぶらせ、また、うろことじのよろいを身にまとわせ」ました。しかし、ダビデはそれを脱ぎ捨てます。そしてダビデは初陣の青二才にすぎないのに、戦いのためゴリアテとは対照的な準備をしました。槍の代わりの杖、弓の代わりの石投げ、矢筒の代わりの羊飼の袋、矢の代わりのなめらかな石五個でした。一方のゴリアテはまるで戦車のように甲冑で身を固め、非常に頑丈な攻撃用の武器を手にしていました。ダビデよりもはるかに背が高く、熟練した兵士でした。ゴリアテは自分の戦果を誇り、これから成し遂げようと

していることまで自慢げに語りました。しかし、ダビデは「わたしに向かつてくるが、わたしは万軍の主の名、すなわち、おまえがいんだ、イスラエルの軍の神の名によって、お前に立ち向かう」と、ただ神に信頼して戦いに挑みました。

見守る者たちが待つ暇もなく、対決は終わってしまいました。ダビデが袋から取り出した一つの石を石投げで投げて、ゴリアテの額を撃ったので、石はその額に突き入り、うつ向きに地に倒れました。ダビデはゴリアテのつるぎをとって、彼の首をはね、殺しました。その結果、ペリシテ人は総崩れとなりイスラエルが勝利したのです。

これは主の戦いであること(47)、そして、主は必ず勝利を与えてくださるとの神への信頼と確信をもって、敵に向かった信仰による勝利です。

### 結論

人生にはさまざまな戦いがあります。しかし、どんな時も、ダビデのように神を信じ、神に頼る、神への絶対依存の信仰に立つことです。ダビデが谷間から石を拾い上げたように、密室の祈りによってみ言葉を受け、これを御霊の力によって用いることが勝利の秘訣です。

## 研究資料

(宮澤清志)

## テキスト

32 あの男 ギリアテのこと。実は、12〜31節までは、ギリシャ語訳旧約聖書（70人訳聖書）には記されていない個所であり、普通に読んでみるとつながりが不自然と思われる個所もあるのはそのためである。だれも彼のゆえに気を落してはなりません という言葉は11節からつながると考えるとつながりやすくなる。

33 年少 ダビデは年若く、また新たに宮廷に召された者であった。またこのような戦闘に不慣れでもあったというのである。次のギリアテと対照していることは明らかである。若い時からの軍人 いわゆる職業軍人。またこのギリアテは異民族の傭兵であったのではないかという見方もある（サムエル下21・22、歴代上20・8）。

34 しし、あるいはくま ライオンや熊は、聖書時代のパレスチナ一带に広く生息していたと考えられている。アジアのライオンはアフリカのライオンと大変類似しており、それらが旧約聖書に言及されている頻度（約130回）から、ライオンは聖書時代のパレスチナにはごく普通に

見られた動物であったのであろう。一方熊もパレスチナ一帯には広く生息していたと考えられている。聖書の語順についてであるが、ライオンは比較的行動の予測がつきやすい一方、熊は何をするか分からないとされており、特に飢えた熊は凶暴であったといわれており、しし↓くま↓あのペリシテ人 という順序で危険度が増すということである。

37 ししのつめ、くまのつめからわたしを救い出された主は、∴ ダビデは、このようなししやくまからの救出の背後には主がおられたことの確信があった。このお方は生きているがゆえに、常に私たちを救うことができるのである。後半のダビデの告白は、この確信からきた言葉である。

38〜40 サウルはダビデに自らのよろいかぶとを身につけさせようとした。一国の王が自らのよろいかぶとを貸し与えるということは、サウルがこの戦いに対して並々ならぬ戦いとなるであろうことを認めていたのであろう。しかしダビデは大柄なサウル（10・23）のよろいかぶとを身につけることはできなかった。借り物の武具では動きが取れなかったのであろう。そこで、彼は自らの



慣れ親しんだ方法で戦うことを決意する。

40 石五個 なぜダビデが石を五個取ったかはわからない。おそらく一個でも問題なくゴリアテを倒すことはできたであろうし、石五個をすべて使い切ったとしても何の問題もなくダビデは勝利者でありえただろう。しかし、敵はゴリアテだけではなく、ペリシテの全軍である。41〜42 若くて血色がよく、姿も美しい ダビデに対して、完全重武装（4〜7）したゴリアテが侮った（42）ことはわからないでもない。

43〜44 ゴリアテの侮りの言葉。この言葉から、ゴリアテが相手であるダビデを見て、侮り以上に侮辱の感情さえ抱いたことを示唆している。

43 70人訳聖書では「杖と石とをもって向かってくるとは、俺は犬なのか？」そこでダビデは言った「いや、犬よりも悪い」。犬 この言葉は今でも中近東では侮蔑の言葉とされている。

44 おまえの肉を、空の鳥、野の獣のえじきにしてくれよう イスラエル人にとって、しかるべき葬りを受けずに遺体が放置されることは、最も悲惨な死に方であり、このことは恐るべき事態であった（列王下9・10、詩篇

79・2〜3、エレミヤ7・33等）。

45〜47 ペリシテ人ゴリアテの侮辱に対するダビデの言葉。この言葉も侮蔑的な響きを持つ言葉で、人間の強さに信頼を置き、ペリシテ人が挑もうとしているイスラエルの神の実在とその力に人間が挑もうとしている姿をあざけっている。この戦いは、「つるぎと、やりと、投げやり」対「万軍の主の名」の戦いであり、主の「救い」（47）のための戦いなのである。そしてこの戦いの先には「イスラエルに、神がおられることを全地に知らせる」（46）ことを意図する戦いなのである。出エジプトの出来事をはじめ、イスラエルの勝利は神の勝利のあとをなぞったにすぎないのである。

48〜49 ペリシテ人が立ち上がり、近づいてくるのを見て、ダビデは急ぎ走り出て、石投げで石を投げ、ゴリアテの手の込んだ武器のただ一点の急所を命中させるほどの正確さでこのペリシテ人を倒した。おそらく彼は石投げによって気絶したのであろう。その後、ダビデはこのペリシテ人自身の剣を取ってその首をはね、絶命させたのであろう。

参考図書 7月26日分と同じ。



## 聖書

サムエル上17・31～49

## タイトル

ダビデとゴリアテ

## 暗唱聖句

主は救を施すのに、つるぎとやりを用いられないことを知るであらう。

## 目標

共におられる神に信頼して、大きな困難にも立ち向かう。

サムエル上17・47

## 導入

(松浦みち子)

皆さんが今まで出会った中で一番背の高い人は誰ですか？ 世界一背の高い人はロバート・ワドローさんで、身長272cm、体重200kgだそうです。ずいぶん高いですね。でも、聖書には、6キュビト半もある大男が登場します。1キュビトは約45cmですから、計算すると290cmほどの高さです。ひえー、もうビックリです。今日はそんな大男のお話ですよ。

## 大男ゴリアテ

ある時、ペリシテ人がイスラエルに戦いをしかけてきました。谷を挟んでペリシテ軍とイスラエル軍はにらみ合っています。その時、身長が3メートル近くもある大

男が前に出てきました。ペリシテ軍の代表戦士ゴリアテです。重いよろいを軽々と着て、頭には青銅のかぶと、足には青銅のすね当て、肩には青銅の投げやりを背負い、手には太い槍を持っています。そのゴリアテが大声で叫びました。「だれか、おれ様と勝負する者はいないか？ 一対一でだぞ！ もし、おれ様を倒したら、ペリシテはお前たちの奴隷になる。だが、おれが勝ったらお前たちは奴隷だ！ さあ、誰かいないか」。ドッシーンと足踏みます。イスラエルの兵隊たちはぶるぶる震えるばかりで戦う勇氣ある者はだれ一人いません。

## 戦いに挑むダビデ

そんなある日、ダビデはお父さんのお使いで、戦場にいるお兄さん達に食べ物を持ってきました。そしてゴリアテの大声を聞いたのです。「なあんだ、お前たちはおれと戦うのが怖いのか。ハッハッハ。イスラエルに勇氣あるやつはいないのか！」それを聞いたダビデは顔を真っ赤にして怒りました。「あの大男は何者なので、生ける神様の軍をバカにするのか！ ぼく達には神様がいつも一緒にいておられるんだぞ！」ダビデはサウル王様に力強く申し出ました。「わたしがあの大男のペリシテの大男

と戦います」。「何だと、お前はまだ子どもだし、戦いの経験もないだろ。相手は熟練した軍人なんだ、無理だよ！」「いいえ、王様。わたしは羊の番をしています、ライオンや熊が襲ってきた時、この手で打ち殺して羊を助け出しました。また、飛びかかってきた時は、ひげをつかみ殺しました。あのペリシテ人も獣と同じようになるでしょう。生ける神様の軍隊をバカにしたのですから。ライオンの爪や熊の爪からわたしを救い出してくださった主は、このペリシテ人の手からきつと救い出してください」と言いました。王様は「行きなさい。主があなたと共におられるように」。王様は、自分のよろいかぶとを使うように言いましたが、ダビデには不慣れで身動きが取れません。ダビデは、羊の番のとき、いつも持っている杖と、谷間から拾ってきたなめらかな石五個、石投げを手にとってゴリアテに近づいて行きました。

### ダビデの勝利！

ゴリアテは、背も小さく、よろいも身に着けず、杖を持って近づくダビデに向かって大声であざ笑いました。「杖を持って向かって来るが、おれ様は犬なのか。さあ、向かってこい！ お前の肉を空の鳥、野の獣の餌食にし

てくれよう」。ダビデはゴリアテに向かって言いました。「お前は、つるぎと槍を持ってわたしに向かって来るが、わたしはイスラエルの神、万軍の主の名によって戦うのだ。きょう、主はお前をわたしの手に渡される。わたしは、お前の首をはね、空の鳥、獣の餌食にしてくれよう。主は救いを施されるのに、つるぎと槍を用いられないことを知るであろう。この戦いは、主の戦いだ！」「なにを、なまいきな！」カツとなったゴリアテはダビデに向かってきます。ダビデは素早く、袋の中から石を取り出して、石投げでエイツ！と石を飛ばしました。ビューン、バシツ。「ウォー！」ドツシーン。地響きを立ててゴリアテが倒れました。一発の石が見事にゴリアテの額に命中したのです。ペリシテ軍はあわてて逃げて行きました。ダビデは神様の力によって、勝利したのですね。ハレルヤです。バンザイ！

皆さんには、大男のように、あなたの前に立ちほだかるものがありますか？ 自分の考えや、自分の力で解決しようと頑張るのではなく、神様により頼み、祈りましょう。主は、あなたの祈りを聞いて助けてくださる方です。♪おおしくあれ♪（新聖歌486、ふ82、イン77、ホ106）

# 聖書 サムエル下22・1〜7 テーマ 岩なる主

序論

(小泉 創)

もし、誰かから、「あなたの信じている神様は、どんな方ですか?」と尋ねられたら、なんとお答えになりますか。ダビデはこの個所で、私の信じている神はこのようなお方だと高らかにうたいます。幾分かの違いはありますが、詩篇18篇にもおさめられています。

## 一、確かな守りを与えてくださる神

ダビデは、主に向けてこのように賛美しています。(主は岩、わが城、わたしを救う者、わが神、わが岩。わたしは彼に寄り頼む。わが盾、わが救いの角、わが高きやぐら、わが避け所、……。)ダビデにとって、神は、岩のようなお方です。あるいは城のようなお方です。他にも盾、救いの角、高きやぐら、避け所と表現しています。神がいかに信頼することができなお方であり、的に攻められたときにいかに確かな守りを与えてくださったかをうたっているのです。

神からサウル王につぐ王に選ばれたダビデです。しかし彼の生涯には、多くの試練がありました。特に先代の王、サウルに命を狙われた際の、長い逃亡生活の苦労はいかばかりだったでしょうか。明日をも知れず、身を守る城もないという中で、どれほどの苦しみを味わったのでしょうか。しかしダビデは、そのような歩みの中にも、神が与えてくださった確かな守りを実感しました。神こそ信頼して間違いないお方であり、豊かな守りをお与えくださるお方である。どんな岩よりも、どんな城よりも、頼りになるお方が私の神なのだ、と。だからこそ、勝利のときにダビデは力いっぱい神を賛美しました。

## 二、救い主である神

若いころから神に信頼し従い続けてきたダビデですが、後年、大変な罪を犯しました。バテシバと不倫をし、事件をもみ消すためにその夫ウリヤを戦場で殺させたのです。ダビデは預言者ナタンを通して、自分の犯した恐ろしい罪を示され、神の御前にひれ伏しました。この時のダビデは、外からの敵ではなく、自分の内にある敵に翻弄ほんろうされていたと言えるでしょう。罪と、その報酬であ

る死が、ダビデを滅びへといざなっていたのです。しかし神はダビデを罪と死の内から救いだし、新しくしてくださいました（サムエル下11、12章）。ダビデはこの恵みを詩篇51篇として歌っています。人を罪と死の中から救い出すことができるのは、神以外にいらつしやいません。イエス・キリストの十字架による救いの素晴らしさを私たちもほめたたえましょう。

### 三、叫びに応えてくださる神

ダビデは神の名を呼び、叫び求める生涯を送りました。主なる神は、ダビデの声を聞いてくださり、叫びに耳を傾けてくださったのです（7）。詩篇には、彼の信仰の足跡がしるされています。私たちの神は、ダビデと同じ神です。私たちはどのように神の名を呼び、叫び求めているでしょうか。大きなことに關してばかりではなく、日常の小さなことの中にも、生きて働いてくださる神に信頼し、求めさせていただきましよう。私たちの声は、神の耳に届いているのです。

東日本大震災を経験したある牧師は、地震の被害にとどまらず、津波、原発事故と続いたことを通して、これ

からおそろしい時代が始まると目の前が真っ暗になる思いに襲われました。しかしその後ふと気づかされました。このような大きな苦難がすべてを奪い去るのではありません。そうではなくて、アダムとエバの墮罪からずっとこの世界は苦しみに満ちていると聖書に書かれています。そしてその中でもがき苦しんでいるすべての者を生かすために、神のひとり子が来てくださったのだ、ということに目が開かれました。揺れ動く地にあつてなお主をさがめ、主に頼りつつ、悩んでおられる方々のために立ち上がっていかれました。

### 結論

神の内に逃げ込みましよう。確かな守りが与えられます。

自らの弱さや罪を御前に告白いたしましよう。救い主なる神は、ゆるしを与えてくださいます。

どのような時にも祈りの声をあげましよう。神は叫びに耳を傾けてくださり、必ずお応えくださいます。

## 研究資料

(宮澤清志)

本章はイスラエルの王ダビデの作とされており、ダビデが自分を敵の手から救ってくださった偉大な主への賛美がうたわれている。それがここに収録されているのは、前章に記される、ダビデがサウル王家から完全に守られるに至った賛美という意味で語られたのであろう。

この告白は詩篇18篇にほぼ同じ形でうたわれており、本日のテキストと並行してこの詩篇を読みながら説教の備えとしたい。また全体の流れを把握するためにも、サムエル記下22章や詩篇18篇全体を黙想して備えたい。

## テキスト

1 この節は、詩篇では表題の位置に置かれている。他の詩篇であれば、この個所には生活の中の個々のエピソードが置かれることが多いのだが、この詩においては、この表題は詩の全体の包括的な位置づけとなっている。あるいは、この個所はダビデの歴史への神学的な注解であると考ええるものである。**ダビデ**はこの言葉は、この詩の作者がダビデであることを明確に述べている。**もろもろの敵の手** アブサロムの反乱(サムエル下15・

1(18・15)やシェバの反乱(サムエル下20・1(22)のことが念頭にあるものと考えられる。いずれも、イスラエルにとっても、また彼自身にとっても命取りになりかねない出来事であった。**サウルの手** 見たように、ダビデ王を取り巻く様々な反乱がある中で、サウル王のそれは別格なものであったであろう。最も手ごわく、また最終的にダビデの王としての権威を確立させるものとなったのは、このサウルからの救出であった。具体的な出来事については決めがたいので、ダビデ物語をもう一度思いめぐらす必要がある。

2(4) これらの節の中の一連の比喩は、ダビデの神が代々の岩であり、あらゆる危機において全く信頼に足るお方であることを宣言するダビデの言葉であると理解することができる。

2 詩篇第18篇では、この節の冒頭に更に一行が加えられている。「わが力なる主よ、わたしはあなたを愛します。」という言葉であり、これは最初の信仰の告白であるといえる。**主はわが岩、わが城** この言葉は一對になっており、信頼しうる確かなものをあらわす。岩(新改訳では巖)とは、ダビデの経験ではサムエル上23・25(28

での経験に基づく告白かもしれない。

- 3 詩人は、神の力と守りとを表すために、更に言葉を重ねている。デリッチは、詩篇の注解の中で、「この句は主の称号を七つ数えている。これは聖なる事物の完全さを表す神秘数である」と語っている。わが神、わが岩、新改訳聖書では「わが岩なる神」としている。岩は力、確固、安全の意味を含んでおり、象徴的にはイスラエルの民の保護者、また要害としての神を指す。盾 象徴的には王によって与えられる保護を意味しており、特に神が与える保護という意味合いで用いられる。救の角 しばしば象徴的に「力」の意味で用いられる。この象徴は、雄牛の角に基づいたものである。救いの角という言葉は聖書中ことルカ1・69（ザカリヤの讃歌）に記されており、救いのための強力な助けを意味している。また、角はしばしば王権の象徴とされている。やぐら 町の要害を固めるために城門に建てられ、守備と攻撃のために用いられた。
- 4 ほめまつるべき 全体の基調を示す言葉である。作者の今までの体験と習慣を示す用語が用いられている。
- 5～6 ここに描かれる情景は、まず第一に敵対する水

について語り、それは死と関係し、また滅びを意味するものである。神の力に逆らうものとして並べられているこれらの力が、この詩の作者であるダビデを支配しているかのような記述である。ダビデが死に直面し、必死にその中から叫んでいる様子がうかがえる。

- 5 死の波 詩篇では「死の綱」と訳される（詩篇18・4）。滅び（へ）ベリヤアル バビロニヤ神話では、死の象徴として登場する。「ベリ」とは「くできない」、「ヤアル」とは「上る」の意。従って、「滅びの大水」とは、ひとたび落ちたならば、誰もはい上がることでできない水、川（詩篇18・4）とでも理解できる。

- 6 前節より表現されている死の力が一層強調される。

- 7 この節に表される言葉は継続を意味する言葉であり、ダビデは「呼ばわり」「叫び」続けたのである。それに對して主も「聞き」続けられる。まさにそのこと自体が「助け」である。同時に神は、神の耳に届くすべての叫びの中から、一人ひとりの必要を聞きわけてくださるお方として描かれているのである。宮 天の宮のことをさす。

参考図書 榊原康夫「サムエル記 第2」『新聖書注解旧約2』（いのちのことば社）他



## 聖書

サムエル下 22・1～7

## タイトル

岩なる主

## 暗唱聖句

主はわが岩、わが城、わたしを救う者、  
わが神、わが岩、わたしは彼に寄り頼む。

サムエル下 22・2～3

## 目 標

困難や危機の中で守り助けてくださる神  
を覚え、信頼して生きる。

## 導入

(水野晶子)

夏休みは家族や教会のサマーキャンプで、山や海に出  
かけます。いろいろな体験ができていいですね。たくま君は、お友だちを教会のキャンプに誘いました。  
するとそのお友だちからこんな質問がありました。「ね  
え、たくま君が信じている神様ってどんな神様なの？」  
皆さんは何と答えますか？ 「教会に来たらわかるよ」  
「キャンプで質問しよう」など、自信を持って答えられな  
いとしたら、今日、聖書にはなんて書いてあるか学びま  
しょう。お友だちに自信をもって伝えたいですね。

## 守ってくださる神様

先週は、大男のゴリアテを小さな少年ダビデが、石投  
げと石で倒した話を聞きましたね。神様がダビデに力と  
知恵を与えたのです。ダビデがヒーローとなってみんな  
から注目されると、サウル王様は、ダビデを憎み、殺そ  
うとしました。ダビデはサウル王様から逃げて荒野の岩  
に隠れたので、殺されずにすみしました。また、洞穴に逃  
げ込んで守られました。ダビデが王様になってからもい  
つも神様が盾となつて、敵の攻撃からダビデを守り続け  
てくださいました。生涯をふり返ってみてダビデにとつ  
て神様は、絶対的に信頼できるお方であり、どんな時  
にも助け支えてくださったのです。そのことを心から感謝  
して、神様を岩や盾、城などに例えて賛美しています。

## 救ってくださる神様

神様はダビデを多くの敵から救い出してくださいまし  
た。ダビデにとって一番の敵は神様から引き離そうとす  
る悪魔でした。悪魔は私たちにも近づいてきて、心にさ  
さやきます。「誰も見ていないよ」「ちょっとだけならわ  
からないよ」といって、神様が喜ばれないことをしたり、



言っちゃったりする罪を犯させるのです。

ある日、ダビデはお昼寝をして目を覚まし、屋上で涼んでいると、一人の美しい女の人が体を洗っているのを見ました。なんとダビデは誘惑に負けてしまいました。その罪を隠すために人殺しまでしちゃったのです。それからが大変でした。ダビデの心は不安と頭の上に石が乗っているような重荷とで、苦しみました。神様から遣わされた預言者によって、ダビデははつきり罪を認め、神様に告白して悔い改めました。神様はダビデの罪を赦しきよめ、また、前のように神様と交わるようにしてくださいました。

罪が赦され、救われることはとってもうれしいことです。ダビデはうれしくてたくさん詩を作り、救い主をほめたたえています。私たちのために十字架にまでかかって罪から救い出してくださいましたイエス様をもっともっと喜び歌いましょう。

### 叫びに応えてくださる神様

「お母さん、ねえ、お母さんてば」「聞いている？ 8回も呼んだのに」「やっぱり聞いていなかったね」なんてこと

がよくありますね。神様は違うんだよね。私たちの声に耳をそばだてるように、どんなに小さな声もつぶやきも聞いてくださいます。苦しくてつらくて、「神様！」と叫ぶ時も神様は聞いていて、最善のことをしてくださいます。

ジョージ・ミューラーさんはいつも神様だけに頼り、祈りによって約一万人の孤児を養った人です。一八六四年の五月から一年の間、日照りが続いて、孤児の家の15の貯水槽が空になってしまいました。毎日十キロリットルの水が必要です。職員や子供たちみんな、心を合わせて「雨を降らせてください」と毎日祈りました。神様はその叫びを聞いて、雨を降らせる代わりに、何人かの人の心を動かして、必要な水を与えてくださいました。誰に相談したのでも、役所を当てにしたのでもありません。大きな井戸を持つている人が頼まないのに進んで協力してくれたり、畑に流れる小川の水を分けてくれる人もいて、雨が降るまで毎日水が与えられました。お金も食料も足りなくなることが何千回もありました。神様はいつも祈りに応えてくださいました。神様って素晴らしいね。もっともつと神様に信頼し神様のことを知らせよう。

♪すばらしい神様♪ (PW23)

# 聖書 列王上3・16〜28 テーマ ソロモン王の知恵

## 序論

(鎌野善三)

今週は、「旧約⑥ 王」の単元の5回目として、紀元前960年、若くしてダビデ王の継承者となったイスラエル王国3代目の王ソロモンに焦点をあててみよう。彼の知恵がどのようなものであったかを示す逸話が、今日の聖書個所に記されている。

## 一、公平にさばく知恵

こともあろうに、普通の人々ではなく、へふたりの遊女が王のもとにきたことに留意したい。長老や役人では解決できない難しい問題だったゆえに、王の最終判断が求められたのだろう。当時の社会にあつて、遊女は決して芳しい職業ではなかったにもかかわらず、しかも、このように最高権力者である王に直接訴えるシステムができていたことは驚きだ(これらの点では、江戸南町奉行だった大岡越前守の似たような裁判の話とかなりの違いがある)。そして王は彼らの訴えを真剣に聞き、何ら差別す

ることなく公平に対処した。

二人の話を聞いたとき、王は、どちらがうそを言っているのか、その口調や表情である程度分かったかもしれない。しかし王は、主観的な判断で安易にさばきを下さなかった。正しく、公平にさばくために、知恵を用いたのである。

## 二、愛に基づく知恵

遊女にとつて、妊娠することは決して喜ばしいことではなかった。父親は不明なので一緒に住めず(だから家には彼女たちしかいなかった)、育児の経済的負担をどうするか、心配していたかもしれない。しかし二人は様々な困難を克服して、出産にまで至った。二人とも生まれた赤ん坊を愛していたはずである。だからこそ、一方の女は自分の不注意で赤ん坊を死なせてしまつても、あきらめきれずに、取り替えたのだ。しかしそれは赤ん坊を自分のもの、自分の所有物と考えることであり、正しい愛の姿ではない。

王が(生きている子を二つに分けて、半分をこちらに、半分をあちらに与えよ)と命じたとき、本当の母は、(生

きている子を彼女に与えてください」と叫んだ。赤ん坊が生きていてさえくれたら、たとい自分が育てることができなくても良いと思つたからだ。それこそが正しい愛である。逆に、「わたしのものにも、あなたのものにもしないで、分けてください」という女は、赤ん坊を物のように考えていた。万が一、この女が本当の親であつたとしても、彼女は赤ん坊を正しく育てることはできないだろう。王は、赤ん坊に対する母親の愛を信じて、このようなさばきをしたのである。

### 三、神から与えられた知恵

「イスラエルは皆王が与えた判決を聞いて王を恐れた。神の知恵が彼のうちにあつて、さばきをするのを見たからである」。ソロモンの知恵は、彼自身から出てきたのではない。それは神から与えられたものだった。即位の直後、主が夢に現れたとき、彼は自分が「小さい子供であつて、出入りすることを知りません」(7)と、その未熟さを認め、「自分のために長命を求めず、また自分のために富を求めず、また自分の敵の命をも求めず、ただ訴えをさきわけする知恵を求めた」(11)。主がその求めに応

えて知恵を与えられたからこそ、遊女であつても公平に、また彼らの中にある愛を信じて、さばくことができたのだ。

自分の無能を知り、神の力に信頼することこそが信仰である。ソロモンが生涯、この信仰を持ち続けたなら、イスラエルの歴史は違つたものになつただろう。しかし彼は、周囲の国々の王女たちを妻としたため、晩年、「その妻たちが彼の心を転じて他の神々に従わせた」(11・4)。政略結婚は、信仰を否定することだったのである。

### 結論

ソロモンの知恵は確かにすばらしいものだった。しかし主イエスは、「ソロモンにまさる者がここにいる」(マタイ12・42)と仰せられた。確かに、「キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵」となられた(1コリント1・30)。主イエスを信じる者こそ、ソロモンにまさる知恵者である。謙遜にこの知恵を求め続けようではないか。

## 研究資料

(石田高保)

「ソロモンの知恵」と人の口にものぼるように、ソロモンが知恵ある王であつたことは一般的にも知られている。そこから神話化されてソロモンは不思議な指輪を持っており、それによってどんな動物とも話しができたという伝説も生まれたほどである。今日の個所は、彼に授けられた神の知恵を具体的に伝えるエピソードである。実際にはおびただしい事例があつたであらう。ソロモンの手による箴言にもその賢明さが遺憾なく表されている。

## テキスト

16 ふたりの遊女が王のところにて、王の前に立つた王の前とは、いわば最高裁判所である。長老や役人たちがつかさどる下級裁判所では取り扱いかねる難題であつたことがうかがえる。遊女でも王に訴えることができたほど、王の裁判はすべての人に開かれていた。イスラエルの王は、士師時代の「さばきづかさ」が発展したもので、行政、司法、軍事を一元的に掌握しており、その政治の責任を主なる神に負っていた。

17 ああ、わが主よ 王を神様扱いしているわけではなく、わが主人よと敬意を表す呼び方である。

18 わたしたちは一緒にいましたが、家にはほかにだれもわたしたちと共にいた者はなく、ただわたしたちふただけでした 当事者である二人以外に目撃者や証人のいない事態なので、裁判としては困難を極める。

20 はしための眠っている間に、わたしの子をわたしのかたわらから取って、自分のふところに寝かせ… 自分が目にしていないことであるにもかかわらず、相手の非であると断言しているのは、母親としての直感が働いたからであらう。

22 彼らはこのように王の前に言い合った 二人の口論が激しさを増し、水掛け論となり、第三者にとつては、当事者以外に証人がいないので、判断に困る事態である。ところがソロモンには、それを見分ける力があつた。

24 そこで王は「刀を持ってきなさい」と言った 当事者の言葉だけでは判断できないと見た王は、その場にいる誰にでも分かる方法で裁きをつけようとしている。

25 生きている子を二つに分けて、半分をこちらに、半分をあちらに与えよ ソロモンは、経験的にもわが子に

対する母親の気持ちはどんなものであるかをわきまえていたのであろう。この言葉が事の真偽を両断することになる。まさにソロモンのうちに神の知恵が働いている。

**26** **すると生きている子の母である女は、その子のために心がやけるようになって** 直訳としては、「彼女のほらわたは熱くなった」。実の母は、わが子が殺されるくらいなら相手の女に渡してでも生きてくれるほうがましだ、という断腸の思いで王に進言した。一方、相手の女は、それをわたしのものにも、あなたのものにもしないで、分けてください と冷たく言い放った。つまり赤ん坊は死んでもかまわないという意味である。ソロモンは、このような二人の反応の違いをあぶり出すことによって、本当の母親を見抜くことができた。まさに「王のくちびるには神の決定がある、さばきをするとき、その口に誤りがない」（箴言16・10）とあるとおりである。

**28** **イスラエルは皆王が与えた判決を聞いて王を恐れた** これは人間の能力を超える判決であったので、一同はソロモンに神の知恵が授けられていることを悟った。また、どんな悪事もソロモンの前ではあばかれてしまうという神への畏れを抱いた。神の知恵が彼のうちにあっ

て、さばきをするのを見たからである ソロモンは事実、状況や前後関係に対する靈感された洞察力をいただいていたと言えるだろう。新約的に言えば、これは御霊の賜物の「知識の言葉」に当たるかもしれない（1コリント12・8）。正しい裁判をすべき王として、「聞きわける心をしもべに与えて、あなたの民をさばかせ」（9）、「訴えをききわける知恵」（11）が、彼の求めに従って与えられたと見るべきであろう。そのほか、ソロモンの知恵に関する聖書の記述は以下のとおりである。「神はソロモンに非常に多くの知恵と悟りを授け、また海べの砂原のように広い心を授けられた。ソロモンの知恵は東の人々の知恵とエジプトのすべての知恵にまさった。…彼はまた箴言三千を説いた。またその歌は一千五百あった。…諸国の人々はソロモンの知恵を聞くためにきた。地の諸王はソロモンの知恵を聞いて人をつかわした」（4・29、30、32、34）。「シバの女王は主の名にかかわるソロモンの名声を聞いたので、難問をもってソロモンを試みようとした。…王が知らないで彼女に説明のできないことは一つもなかった」（10・1、3）。

参考図書 『ティンデル聖書注解』、『実用聖書注解』。

## 聖書

列王上3・16～28

## タイトル

ソロモンの知恵

## 暗唱聖句

神の知恵が彼のうちにあつて、さばきをするのを見たからである。

列王記上3・28

## 目標

神様からの知恵によって生きる者となる。

## 導入

(土屋開夫)

みなさん、夏休みの宿題ががんばっていますか? 「もう始ど出来ちゃった」という子も「まだ全然やってない」という子もいるかな。そういう学校のお勉強がよく出来ることも大切かも知れませんが、でもっと大切な知恵があるんです。それは「神様から与えられる知恵」「神の知恵」です。それはどういう知恵かと言うと、神様の前に何が良いことか、悪いことか、何が本当か、ウソか、今、何をすべきか、しないべきか、などを判断することが出来る知恵です。

今日出てくるソロモン王は、ダビデ王の息子の一りで、ダビデ王の後をついでイスラエルの王になりました。で

も王様って大変です。国を正しく治めなければなりません。そこでソロモン王は、イスラエルの国民を正しく治められるように、神様に知恵を求めました。神様はその祈りに答えて、ソロモン王に素晴らしい知恵を与えてくださったのです。

## 二人のお母さん

ある時、二人の女性がソロモン王のもとにやってきました。この二人は今で言うルームシェアみたいに同じ家に住んでいました。そして同じ頃にそれぞれ赤ちゃんを産みました。ところが夜寝ている間に、一人のお母さんは抱いていた小さな赤ちゃんの上に乗ってしまいました。その赤ちゃんはかわいそうに死んでしまいました。ところが赤ちゃんを死なせてしまったお母さんは、死んだ自分の赤ちゃんも、もう一人の生きている赤ちゃんをこっそり入れ替えたというのです。

この二人のお母さんが「生きているのが私の子です。死んだのはあなたの子です」、「いいえ、死んだのがあなたの子です。生きているのは私の子です」と言い張るのです。いったい、果たしてどっちの言うことが本当で、どっちがウソなのでしょう?



## 神様から与えられたビックリする知恵

この時、きつとソロモン王は心の中で祈ったことでしょう、「神様、知恵を与えてください。真実を教えてください」と。そしてソロモン王は刀をもって来させ、「生きている子を二つに分けて、半分をこちらに、半分をあなたに与えよ」と命じました。なるほど、赤ちゃんを半分ずつに分ければいいのか・・・えー！?! そんなことをしたら赤ちゃんが死んでしまいます！

すると、その赤ちゃんの本当のお母さんは叫ぶように言いました、「生きている子を彼女に与えてください。決してそれを殺さないでください。」と。ところがもう一人のお母さんは言いました、「それをわたしのものにも、あなたのものにもしないで、分けてください」と。

この二人の言葉を聞いたら、どっちが本当のお母さんか、みんなにも分かりましたよね。そう、赤ちゃんを殺さないで、と叫んだ女性が本当のお母さんですね。ソロモン王は勿論、赤ちゃんを本当に殺すつもりはありませんでした。本当の心を知るためだったのです。

我が子を本当に愛する母親の愛の心と、悔しさと妬ましさからウソをついたり、人のものを奪おうとする罪の

心、それをちゃんと見分ける知恵を、ソロモン王は神様から与えられたのですね。このソロモン王の判決を聞いた人たちは驚きました。「神の知恵が彼のうちにあって、さばきをするのを見たからである」。(28節)

## まとめ

ソロモン王は旧約聖書の箴言の多くの部分を書きました。その1・7に「主を恐れることは知識のはじめである」とあります。私たちの父なる神様は、何でも知っておられ、何でも出来る「全知全能」の神様ですね。この神様を信じている、知っている、そしておそれ敬って礼拝している・・・そのことがもっとも大切な知識、知恵だということです。

みなさんも毎日生きていく中で色々なことにぶつかってしょう。「あー本当に困った。一体どうしたらいいんだろう」。そんな時は慌てないで、恐れしないで、「神様、どうしたらいいでしょう。知恵を与えてください」と祈ってください。すると心が落ち着いてきて、やがて光が差すように神様からの知恵が与えられてきますよ。

♪祈ってごらんよわかるから♪(新聖歌481、PW7他)



# 聖書 列王上11・1～13 テーマ ソロモンの失敗

序論

(石田高保)

「ダビデ・ソロモンの栄華」と謳<sup>うた</sup>われ世界史にも名高いイスラエルの黄金期も、ソロモンの晩年には神への不従順によって翳<sup>かげ</sup>りを見せるようになる。王への忠誠と信頼によるイスラエル十二部族の団結も、三代目には崩壊し、南北に分裂してしまう。統一イスラエルはわずか二代しか続かなかったわけである。それもソロモンの霊的姿勢に起因していることを思えば、指導者の責任は小さくないことを思い知らされる。このことから人生の最盛期には大いに用いられても、グッド・フイニツシュ(良き終わり)、すなわち晩節を全うすることは容易ではないことを教えられる。

## 一、墮落へなだらかな下り坂

王国の崩壊を招く蟻の一穴は、ソロモンが異教徒の女性を次々と側室に迎えたことである。周辺諸国との同盟を堅くするためという政略結婚の側面はあるにしても、さまざまな異教の習慣が持ち込まれる副作用はじゅうぶん予想されていたはずである。神はそれをあらかじめ見越していた

ので、異教徒との結婚を厳しく禁じている(2)。しかも後宮に千人もの女性を蓄えており、そこには種々雑多な霊的背景を持った人たちがいたわけだから、ソロモンが彼女たちの影響を受けないでは済まなかった。(ソロモンが年老いた時、その妻たちが彼の心を転じて他の神々に従わせた)。この当時、一夫多妻は許容されていたにせよ、そのぶん家庭の事情は複雑となり、やがて機能不全に陥ってゆくことは、父ダビデを反面教師とすれば予見できたはずである。(しかしソロモンは彼らを愛して離れなかった)ので、彼の晩年は霊的姦淫<sup>かんいん</sup>、つまり偶像崇拜に傾くこととなった。王位を継いだ時の初々しく謙虚な心や神殿奉献式の真実な祈りなどは嘘のようである。当時、誰がソロモンの変節を予想できたであろうか。栄華と成功においては父ダビデを圧倒したが、主への熱意と真実においては遠く及ばなかった。

このようにソロモンが多くの異教徒の側室に影響されて主なる神を離れ、偶像に心を寄せるようになったことを神は深く悲しまれて二度までも彼に現れ、直接戒められた。それでもソロモンは心を翻らせようとはしなかった。そこで神はやむなくソロモンの子に王国を二分すると予告

された。それでもダビデの子孫に王位を継がせるという約束は変えず、さばきの中にもあわれみを忘れなさらなかった。

## 二、誘惑に対する筋トレ

ひるがえって私たちの心をイエス様から惑わすものは何だろうか。「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである」(箴言4・23)とあるように、私たちの言葉も行動もすべて思いから始まる。「わたしは口の悪い人間なもので」とか、「心にもないことを言いまして」と言っても、口が勝手にしゃべるわけではなく、心にあることが口に出るのである。その人の言葉はその人そのものであり、言葉は人格を偽ることはできない。

「飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」(1コリント10・31)とあるように、そもそも私たちの日常生活はすべて霊的な営みであって、集会やデポジションに限ったことではない。教会だけが霊的空間というわけでもないのです。私たちの生活は聖俗に分離できない。誘惑に対しては常在戦場である。誘惑に打ち勝つためには、それに弱い霊の領域を見極めることから始まる。悪魔に付け入る機会を与えてはいないか、

依存症的な習慣はないか、性的な誘惑に負けていないか、誰かを赦さないでいることはないか、密かに誰かの不幸を願っていることはないか、誰かに怒りを燃やし続けていることはないか、など。「互いに罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい」(ヤコブ5・16)とあるように、自分ひとりで点検するだけではなく、秘密の守れるクリスチャンの友と定期的に点検し合っていると、キリストのかたちに成熟しやすい。

## 結論

「棺のつぎをおおいて事定まる」と言われるように、人間、死ぬまでどんな失敗をするかわからない。クリスチャンといえども過ちや罪と生涯無縁ではられない。自分は大丈夫という思いを警戒し、イエス様抜きでは全く当てにならない者、赦された罪人にすぎないと認めよう。そうしなければ神と自分を欺いて生きることになる。だから晩節を全うさせていただくためには、ただ主の憐みにすがり、思いと言葉と行いとがみこころにかなうようにと日々自分をトレーニングすることではないだろうか。

## 研究資料

(辻林和己)

主に愛され(サムエル下12・24)、誰<sup>だ</sup>よりもすぐれた知恵を与えられ(列王上3・12)、主イエスから「栄華をきわめた…」(マタイ6・29)とまで言われたソロモン王であったが、11章では彼の墮落と偶像礼拝に陥ったことが語られている。

## テキスト

1 パロの娘 との結婚は列王上3・1を参照。ソロモンの問題は、晩年における彼女以外の異邦の婦人たち(この節では異邦の民族名が五つ挙げられている)との関係であった。

2 主はかつて、イスラエルの人々に言われた かつてのカナン征服に際して、警告として与えられた神の言葉である(出エジプト34・11・16、申命記7・1・4)。ソロモンは神の警告にも拘らず、律法(特に十戒の第一戒と第二戒)に違反し、自らと自国に神の裁きを招いてしまった。心を転じ 3、4節も同じ動詞(ヘ)ナター)。交わる は性的関係を示唆。彼らを愛して離れなかった原文も彼女たちに執着した(ヘ)ダバク)ことが強調され

ている。

3 ソロモンは千人にも及ぶ異邦の婦人たちに心を惹かれてしまった。彼の心を神から離れさせ、偶像礼拝に誘ったのは特に「その妻たち」であった。

4 ソロモンが年老いた時 彼が晩年になって墮落したことを率直に述べている。彼の心は父タビデの心のように 父王ダビデにも十五人の妻がいた(歴代上3・1・9)。しかし主に対する彼の真実は変わらなかった。それとは正反対のソロモンの不真実を語る。

5 シドンびとの女神アシタロテ フェニキアを中心とする地域の主要神。豊穡の神、性道德の乱れを引き起こす祭儀で知られていた。アンモンびとの神ミルコム 彼らはこの神に幼児を人身御供にして捧げるという憎むべき(ヘ)ハラー) 残酷な行爲をしていた。

6 これ以降、ダビデは、後の王たちが 生涯、主への信仰を全うしたかどうか評価される基準と見なされる。逆に、ソロモンは、他の神々に従い 主の目の前に悪を行い と言われる最初の王となってしまった。

7 モアブの神ケモシ アシタロテ(5)のような豊穡の神。アンモンの人々の神モレク ミルコム(5)

のような神。ソロモンはエルサレムの東の山に「高き所」を設け、妻たちの偶像礼拝に協力し、支援した。

**8 香をたき、犠牲をささげた** 原文の動詞「香をたく」〔ヘ〕キーテル 犠牲をささげる〔ヘ〕ズイバーは両方とも分詞形で複数形であることから、偶像礼拝を実際に行ったのはソロモンの妻たちであると考えられる。

**9 ソロモンの心が転じて、…主は彼を怒られた** 「心が転じて」「主を離れ」は原文では一つの動詞「転じる」〔ヘ〕ナター。新改訳は「彼の心が、…主から移り変わった」新共同訳は「心は迷い、…主から離れた」。妻たちの偶像礼拝を支援するソロモンの姿勢は神の怒りの対象となった。**主がかつて二度彼に現れ** 神はソロモンがギベオンに行ったとき（列王上3・5）とエルサレムで神殿が完成したとき（9・1～2）に現れられた。

**11 これがあなたの本心** 原文では「本心」に相当する名詞は用いられていない。新改訳は「あなたはこのようにふるまい」。あなたから国を裂き離して 後に南王国ユダと北王国イスラエルに分かれ、南北分裂王国時代が到来すること。あなたの家来に与える 「ヤラベアムはソロモンの家来」（列王上11・26）だったが、後に北王

国の初代の王となる（列王上12・20）。

**12 しかしあなたの父ダビデのために、あなたの世にはそれをしない** ダビデの信仰に免じて、ソロモンの存命中は王国の分裂は起こらない（サムエル下7・12～16）。**あなたの子** レハベアムのこと。後の南王国初代王（列王上12・1以下参照）。

ソロモンの犯した罪（偶像礼拝）が、彼個人だけでなく後の国の行く末にまで大きな禍いをもたらした。このように偶像礼拝は神が最も忌み嫌われ、怒られる罪である。知恵を求めたソロモン（列王上3・11）は晩年に墮落し、悔い改めなかった。一方、ダビデは罪を犯したが悔い改め（サムエル下12・13、詩篇51）、生涯、神への信仰を全うした。

**13 わたしは国をことごとくは裂き離さず** ダビデの信仰と神によるエルサレムの選びのゆえに王国の全部が裂いて取り上げられることはない。一つの部族 ユダ族が合併したベニヤミン族を指している。

**参考図書** D・J・ワイズマン「列王記」『ティンデル聖書注解』、服部嘉明「列王記」『新聖書注解2』（以上のちのことば社）、他

## 聖書

列王上11・1～13

タイトル  
暗唱聖句

心を守るう！ 神様の力によつて：

このようにソロモンの心が転じて、イス

ラエルの神、主を離れたため、主は彼を

怒られた。  
列王上11・9

## 目 標

唯一の神への信仰によつて心を守る者となる。

## 導入

(和田 治)

ハイ、皆さん、先週のみ言葉、しっかりと覚えていますか？  
『神の知恵が彼のうちにあつて、さばきをするのを見たからである。』でしたね。彼つて？ そう、あの素晴らしいソロモン王様です！ ところが、今日の個所は思わず「え？これがあのソロモン王!? 信じられなくい！」つて言いにくくなります。「ソロモンの心が転じて」とあるように、王の心が全く変わってしまったのです！

## 神様から心が離れたソロモン

ソロモン王は、大ぜいの外国の女の人たちを妻にしました。神様はお命じになっていました。「イスラエルの民よ、外国の人々と結婚してはならない。そんなことをすれば、

その外国の女は、民の心を自分たちの神々に向かわせるようになってしまふ」。それなのに、王は外国の女と結婚したのです。それも、なんと千人もの人たちと！ 彼女たちは王の心を神様から離れさせました、神様が仰つた通りに。王が老いるとそれはどんどんひどくなり、王は外国の偽の神々を礼拝するための場所を、エルサレムの東の山の上に建てたのです。さらに、彼女らがそれぞれの神々にいけにえをささげられるようにと、沢山の礼拝所を建ててやりました。え？ あのソロモン王が？

実は、神様は二度も王に「他の神々を拝むような罪を犯してはならない！」とお命じになっていたのですが、王はその御声に耳を貸そうとしなかったのです。そこで神様は、王に仰いました。「これがあなたの本当の心なのだな。：あなたはわたしとの約束を破り、わたしの教えを捨ててしまった。だから、あなたとあなたの一族から王国を奪い、他の者に与える！」神様はとても悲しまれ、王を激しくお怒りになったのです。

## 神様から離れないために：

あんなにも神様の知恵に満ちて神様に従っていたソロモンが、こんなことになるなんて！ いったいどうしたら、

最後まで神様にまっすぐに従えるのでしょうか？

今、このみ言葉を心にしっかりと刻みましよう…。

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである」(箴言4・23)。

皆さん、「心に思ってもいけないことを言っちゃった」とか、「心に思い浮かびもしないことを言っちゃった！」なんてことはないですよ。つまり、私たちの言葉やふるまいは、私たち自身の「心」から出てくるんです。その「心」を守りなさい！って神様は仰るんですね。

そのためには、「自分は大丈夫！ だって、心が強いんだから！」っていう気持ちを捨てることです。私たちはみんな、イエスさまに赦していただいた罪人にすぎません。誰だって弱さがあるし、どんなところからでも脱線したり失敗したりするかもしれないんです。ソロモンでさえそうだったんですから！ もし私たちが自分の弱さを認めれば、「神様、どうか弱い私の心をお守りください、あなたの力で！」って祈らずにはいられませんよ。

### 心を守る方法

献(けん)君は、毎日、朝一番に、「天のお父さま、あなたはどんなふうに僕を愛して下さっていますか？」ってお

祈りの中で尋ねているそうです。また、毎晩、「天のお父さま、今日、僕はどんな罪を犯したでしょうか」って祈るんです。そして、心に思い浮かんだ罪を悔い改めるんですね、罪の赦しのみ言葉を思い起こしながら。それから「天のお父さま、イエス様の十字架の血によって僕の罪をお赦しくださいって感謝します。どうか、弱い僕を守って、明日は罪を犯さないよう、心をお守りください」ってお祈りします。教会学校のお友達とも、よく一緒に祈りしていますよ。そしてね、「大きな罪を犯してしまった」って思ったら、教会学校の先生に「一緒に祈りしてください！」って頼んでいます。聖書も、教会学校のお友だちと一緒に読む。ほとんど毎日読んでいます。こうして、心を神様に守っていただいているんですね、いつも神様をまっすぐに信じられるように！

### まとめ

ソロモンのように、心が変わってしまうことがないように、ただお一人の真の神様を信じ、神様のお力で心を守っていただきます。今日から、お友だちや先生と力を合わせて、出来ることから始めてみませんか？

♪雄々しくあれ♪(新聖歌486、ホ106、イン77他)



# 聖書 列王上12・1～16 テーマ 勧めを聞く耳

## 序論

(石田高保)

自分と異なる意見を受け止めたり、議論を深めてより良い結論に導いたりすることは自然とそうなるのではなく、謙遜と寛容と忍耐を要するのではないだろうか。

## 一、反対意見を退ける危うさ

ソロモン王の後半生は太平に馴れ、宮廷生活もより派手になり、放漫財政による重税に怨嗟えんさの声が上がるようになる。そこでイスラエル10部族の長老たちは、ソロモンの治世への不満から、王が代替わりするとヤラベアムを新しい王に担かぐとした。王位を継いだレハベアムのところに、ヤラベアムと長老たちがやってきて、労役と税金を軽くしてほしいと願い出た。もし要求がはねつけられたら、こちらはヤラベアムを王に戴く口実になると計算していた。するとレハベアムはまず父ソロモンに仕えた老臣たちに相談した。彼らは王に、代表者たちの願いを受け入れなければ、10部族は離反すると警告した。彼らは長い統治経験から、10部族の不満が高じており、

レハベアムの権力がまだ固まらないうちに、長老たちをむげに扱うなら、国を治めることはおぼつかないことを知っていた。まずは長老たちの要望に耳を傾け、寛容な政治を行うことが王道だということだろう。

ところがレハベアムはその意見が気に入らなかったのか、同世代の若い側近たちに相談する。老臣の進言を受け入れたなら、その必要はない。つまりは最初から聞く耳を持っていなかった。すると側近たちはソロモン王の時よりもつと労役と税金を重くすべきだと進言した。それは王が民の要求に軽々とこたえれば權威が下がり、即位間もない時に強く出ないと見くびられるとでも考えたのだろう。不幸なことにこの進言がレハベアムの心にかかった。あるいは側近たちが王の心を忖度そんたくして言ったのかもかもしれない。彼らは老臣の経験知を尊重しなかった。そこで王は老臣の進言とは正反対の判断を下す。しかも高圧的、挑戦的なものの言い方であり、長老たちをすっかり怒らせ、王国の分裂を決定づけてしまった。

この一度の判断が王国を数百年に及ぶ分裂に導くことになるうとは、レハベアムやその側近たちの考えには及ばなかっただろう。分裂の直接の原因をつくったのは彼

らであるが、もとはと言えばソロモン王が徐々に偶像礼拝に傾き、もはや引き返せないところまで行つたとき、主が預言していたことである(11・11)。近くは主が預言者とおしてヤラベアムに預言していたことでもある(11・31)。それらのことがレハベアムと側近たちの経験不足からくる軽率さや自己過信と絡み合つて成就している。

## 二、反対意見を聞くという知恵

若い人が年配者の考え方を古臭いと思ひ、年配者は若い人の考えを未熟なものと決めつけやすいことは古今東西を問わないだろう。もし年配者の言うことだけを聞いていたら、社会に変革は起きないし、若い人の言うことだけを聞いていたら、社会は不安定になるだろう。保守的な要素も、革新的な要素も社会にはバランスよく必要である。たとえば年配者が自分の地位と立場にものを言わせて若い人の意欲やビジョンを抑圧するとしたら、それは老害というものである。そういうリスクはあるものの、年配者の考えが常に正しいわけではないが、若い人よりもさまざまな問題処理をしてきた分、経験知も多く、おおむね生きる知恵に富んでいると言えるだろう。だから若い人はそのことのゆえに年配者を尊敬し、耳を傾け

るといふ知恵を身につけるべきである。普通の社会生活では自分が100パーセント正しくて相手が100パーセント間違っているといふことはめつたにない。ひよつとしたら自分にも誤りがあるのではないかと自省し、人にも相談するといふ謙虚さが欲しい。またそれを仲間内に検証してもらうだけでなく、自分より経験のある人に相談したい。そういう人間関係を持つていゝなら、私たちは大きな判断ミスを免れるだろう。語る知恵というよりも聞く知恵といふべきか。

## 結論

誰でも自分のアイディアや主張や計画を持つており、その実現を誰にも邪魔されたくないもので、人のアドバイスや忠告に耳を傾けることは、簡単ではない。また自分一人で成功したいという野心が潜んでいるなら、なおさらである。しかし自分の邪魔をするかのように見える人の言葉も受け止め、議論を深める過程で、創造的な結論に至ることがある。使徒行伝15章のエルサレム会議がそうであつたように、クリスチャンどうしの会話や教会のミーティングの中に、人知を超えて聖霊が最善に導いてくださることに期待しよう。

## 研究資料

(小平徳行)

ソロモンの40年に及ぶ治世が終わり、その子レハベアムが王位を継承した。しかしイスラエル王国は南北に分裂する。この個所は、分裂の直接的要因となる出来事を記している。

## テキスト

1 レハベアムはシケムへ行った。すべてのイスラエルびとが彼を王にしようとシケムへ行ったからである。ソロモンの後、レハベアムが王となったことが前章末に記されているが、これは実質的にはユダの王権を受けたにすぎなかった。ソロモンの息子が即位することは、継承順位において至極正当なことであったが、全イスラエルの王として就任するためには北の十部族側の承認を得ることが必要であった。北の部族はソロモンの圧制のもとで反抗的になっていたのである。このような手続きを取ったのは、恐らくソロモン治世末期の北の分裂を憂慮した長老たちの配慮に基づくものと考えられる。シケムパレスチナのほぼ中央、ゲリジム山の東側斜面に位置しており、イスラエルのカナン入国後、重要な場所となっ

ていた(ヨシユア24・1)。そしてしばらくは分裂後の北王国の首都となった(12・25)。

2 ネバテの子ヤラベアムはソロモンを避けてエジプトにのがれ ヤラベアムはソロモンの家来であったが、敵対したゆえに、ソロモンから命を狙われ、エジプトにのがれていた(11・26、40)。

3・4 今父上のきびしい使役と、父上がわれわれに負わせられた重いくびぎとを軽くしてください 北の諸部族はレハベアムに対して、彼を自分たちの王として認めるための条件を提示した。事態の改善を求めたのは、それだけ、イスラエルの人々にとっても、ソロモンの時代の強制労働や重税に対する不満が激しかったことが想像される(参照9・15以下)。

6・7 老人たち 新改訳では「長老」。彼らの地位はイスラエルにおいて古くから特別なものであり、尊敬されていた。この長老たちは、北の諸部族の要求をくみ取って譲歩するよう勧めた。彼らはソロモンの失敗を憂慮していた人々であろう。ソロモンの罪に加担するようなこともあったかもしれないが、この時、南北の分裂の危険性を感じ取っていたようである。この民のしもべと

なつて イスラエルの王は、しもべとなつて仕えることによつて、王たり得る。これは他国にはない独特の考えであつた。主にあつては、王も民も仕え合うことが本質的なあり方である。イエスはしもべなるメシヤとして、このことの最も良い模範である（マルコ10・42〜45）。**ねんごろに語られる** 直訳するならば「良い言葉を語る」。「良い」（ヘトーヴ）は「善い、快い、嬉しい」などの意味がある。新改訳は「親切なことばをかけ（る）」、新共同訳は「優しい言葉をかける」。

**8〜9** 彼は老人たちが与えた勧めを捨てて しもべとなつて仕えることはレハベアムの意に沿わなかつたようである。**自分と一緒に大きくなつて自分に仕えている若者たち** この時、レハベアムは41才であり（14・21）、若い集団と与しやすかつた。

**10〜14** わたしの指は父の腰よりも太い 若者たちの助言は、格言的なものを用いている。これにより、レハベアムは自分が父親よりも比較にならないほど強いかのよくな優越感と権力意識を吹き込まれた。その結果、北の諸部族の要望を聞いて譲歩するのではなく、さらに過酷な取り扱いをすることを宣言する。彼らの助言はバラ

ス感覚を失つた、傲慢なものであつたが、レハベアムも容易に彼らの考えになびいてしまった。さそりをもつてあなたがたを懲らそう これはさらに過酷な労働に追い立てるために、通常のむち打ちに対して、とげなどのついた懲罰用具を用いて懲らしめることを意味する。

**15** かつて主がシロびとアヒヤによつて、ネバテの子ヤラベアムに言われた言葉を成就するために、主が仕向けられた事 11・29〜39。イスラエル王国の南北分裂に至る直接的な要因は、レハベアムの理解しがたい、愚かな対応にあつたが、これは主のご支配のもとにあつた。分裂の真相は、ソロモンの不従順（11・1〜13）に対する神の裁きの成就であつた。

**16** イスラエルの人々は皆 ユダとベニヤミン族を除く民。われわれはダビデのうちに何の分があろうか 彼らの答えは、自分たちの立場が正当に認められないことの確認と共に、いかなる和解をも完全に拒絶するという態度を示唆している。

**参考図書** ドナルド・J・ワイズマン『ティンデル聖書注解 列王記』、舟喜信『新聖書講解 列王記』、（以上のちのことば社）、他

## 聖書

列王上12・1～16

## タイトル

素直に聞ける？ アドバイス

愚かな人の道は、自分の目に正しく見える、しかし知恵ある者は勧めをいれる。

箴言12・15

## 目標

神からの勧めに耳を傾け、従う者となる。

## 導入

(和田 治)

「まきちゃん、夏休みの宿題、早いうちにやっておかないと、終わりがちに困っちゃうわよ。」「はあ、いい、わかっているって、お母さん!」ところが、まきちゃん、なかなか宿題をやらうとしませんでした。実は、仲良しのかねえちゃんが「大丈夫! いっぱい遊ぼうよ! 宿題なんかギリギリになって一気にやった方が、かえって早く終わるもんだよ!」って言うてたんです。「ああ、くん! もっと早くやっとけばよかった!」。夏休みの初めには、お母さんのアドバイスよりも、お友だちの声の方が、心にピタッと来たんですね。皆さんは、誰かからアドバイスをもらった時、素直に聞けていますか、それが、今の自分にとって、「はい!」って言いにくいことも。

## 自分の思い通りに:

さて、先週、せっかく神様から豊かな知恵を与えられていたのに、神様に背いてしまったソロモンについて学びましたよね。そのソロモン王が死んで、息子のレハベアムが王になったばかりの頃、一人の人が、王のもとに来ました。彼の名はヤラベアム。イスラエル王国の北半分のリーダーです。ソロモンが王として自分たちを治めるやり方が厳し過ぎたので、エジプトに逃げていたんです。ソロモンが死んだので、大切なお願いに来ました。

「レハベアム王様、どうかあなたの父上が私たちに負わせた厳しすぎる重荷を軽くしてください。そうすれば、私たちはあなたの仰ることを聞きましょう。」「もう三日したら私のところに戻って来なさい。そう答えた王は、長くソロモンに仕えてきた、年取った長老さんたちに相談しました。」「どう答えたら良いでしょう?」「あなたが、皆のしもべになったような気持ちで、彼らに答え、親切なことをばをかけてやってくださるなら、彼らはいつまでもあなたの仰ることを聞くでしょう。」「

さっすが、長く生きてきた長老さんたちらしい、素晴らしい答えです! ところが、なんと! レハベアム王は彼

らのアドバイスを耳を貸しませんでした。自分の思いと違っていたからです。そして、一緒に育ってきた若者たちに同じように相談しました。すると：「王よ、奴らにこう言ってやりなさい。『私の小指は父の腰よりも太い。私の父はお前たちに厳しくしたが、私はもつと厳しくする！父はお前たちをむちで懲らしめたが、私はさそりでおまえたちを懲らしめるぞ！』冗談じゃありません、そんなこと言ったら、みんな王様の言うことなんか聞かなくなってしまうですよ。とんでもない答ですよね！

さて、ヤラベアムは、彼が治める民と一緒にレハベアムのところに来ました、約束の三日目に。さあ、王は、年取った長老さんたちのアドバイス通りに、親切に答えたでしょうか？ ノー！ 偉そうにふんぞり返って、若者たちの言う通りにしてしまっただけです！ なぜなら、彼らの答えこそ、自分の思いにぴったりだったからです。

ヤラベアムや民は大声で叫びました。「こんな王にもう用はない。さあ、国へ帰ろう。レハベアムは、自分の部族だけの王になればいいのだ。」こうして、もともと一つだったイスラエルは北と南で分かれてしまったのです。

アドバイスを聞く耳を持つとう！

皆さん、今日の暗唱聖句をもう一度言ってみましょう！「愚かな人の道は、自分の目に正しく見える、しかし知恵ある者は勧めをいれる」。つまり、愚かな人は自分の考えだけが正しいと思っているのでアドバイスを聞かないけれど、神様の知恵をいただく賢い人はアドバイスを耳を傾ける、という意味ですね。神様のお心になつたアドバイスなら、自分の考えの逆であつたとしても、「はい！」と従うのが一番！つてことですね。それは簡単なことではありません。だから、今、「神様、自分が良いと思うことではなく、神様のお心に従えるよう、どうか導いて下さい！」つてお祈りしましょうよ！

もちろん、自分の思いが神様のお心とぴたり合っていることだってありますよね。アドバイスがいつも正しいとも限りません。実は、神様のお心になつた良いアドバイスは「聖書のみ言葉」と決してずれていないのですね。皆さんがしっかりとみ言葉を心に蓄え、祈り心を持って過ごしていいたら、きっと聖霊なる神様が正しい道に導いて下さいます！ さあ、神様のお心にまっすぐに従う「知恵ある者」の生き方に一歩踏み出しましょう！

♪神さまの声きこえるかい♪（イン84）



# 聖書 ルカ10・25〜37 テーマ 近づき助ける

## 序論

(福井文彦)

この箇所はルカだけが記している有名な「よいサマリヤ人のたとえ」です。ある律法学者が「イエスを試みよう」として「何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」と質問しました。そこでイエスは、「律法には、永遠の命とは神への愛と隣人愛であると記されている。あなたは、助けを必要としている人の隣り人となりなさい」と教えられたのです。

## 一、律法の教え

律法学者とは律法の教師とも呼ばれましたが、パリサイ人の中にもサドカイ人の中にもいました。彼らの大部分の者は、宗教の外面的な形式に注意を払う偽善者であり、心の中にはいささかのへりくだりの思いもなく、神を知りたいという願いも全くありませんでした。彼らは、格別に貧しい人々に重荷を負わせ、助けようなどとは少しも考えませんでした(ルカ11・45〜52)。

イエスは、ある律法学者の「何をしたら永遠の生命が

受けられましょうか」との質問に対して、「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか」と質問されました。彼の答えは正しく、旧約聖書の教えを知っていました。神を愛し隣人を愛することであることは彼には明らかでした。

そこでイエスは「そのとおり行いなさい」と律法学者にお迫りになりました。彼は自分がこれらの律法を破り、自分の隣人愛について、愛の不足を感じていたのです。しかし、彼は悔い改めず、律法の前に正しい者であることを立証しようとした。それで、彼は、「自分の立場を弁護しようと思って」、イエスに「では、わたしの隣り人とはだれのことですか」と逆に問い返したのです。

## 二、よいサマリヤ人

このような律法学者の逃げ口上に対して語られたのが、よいサマリヤ人のたとえです。

エルサレムからエリコへ向かっていたユダヤ人が強盗に襲われ、半殺しにされ倒れていました。そこを祭司が通りましたが、倒れている人の向こう側を通って行きませんでした。彼は律法にあるように、死体によって汚れることを避けたのです。しかし、エルサレムの神殿での奉

仕を終えて帰る途中ですからその心配はなかったはずで  
す。次にレビ人が通りました。彼は倒れているユダヤ人  
に気づいたのですが、祭司同様に見て見ぬふりをして、  
向こう側を通って行きました。

彼らは半殺しにされ倒れている人を助けることより  
も、律法によって求められている儀式的なきよめを守ろ  
うとして、律法が真に意図する愛に生きようとしません  
でした。

ところが、強盗に襲われ半殺しにされたユダヤ人に本  
当に親切にしたのはサマリヤ人でした。ユダヤ人とサマ  
リヤ人とは敵対関係にありました。それにも関わらず、  
サマリヤ人は「彼を見て気の毒に思いました。それで  
この危険な場所で立ち止まって十分な介護をし、自分の  
家畜に乗せ、宿屋に連れて行き、そこで介抱したのです。  
その上、宿料二デナリを払い、それ以上の必要経費があ  
れば、それも支払う約束をして旅立ったのです。

### 三、隣り人

イエスはよいサマリヤ人のたとえを話し終えられる  
と、律法学者にお尋ねになりました。「この三人のうち、  
だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか」と。

すると、彼は「その人に慈悲深い行いをした人です」と  
答えました。そこで、イエスは「あなたも行つて同じよ  
うにしなさい」と、愛の実践を命じられたのです。

ある人は隣り人とは助けを必要としているユダヤ人の  
ことであると考えられるかもしれません。しかし、イエスは  
そのような意味でたとえをお話しになったものではありま  
せん。よいサマリヤ人が隣り人なのです。これが律法学  
者に対する答えです。

律法学者は、他の人を愛する時、愛する価値のある隣  
人はどこまでの人か、その愛する義務と限度を教えてほ  
しいと求めたのです。それに対してイエスは「愛の対象  
には限度がなく、敵であっても隣り人となって愛するこ  
とである。あなたが愛の心を持ち、あなたが助けること  
ができるすべての人々の所へ出かけて行く隣り人になれ  
るかどうかが問題なのである」と教えられたのです。

### 結論

私たちクリスチャンは、聖霊によって愛に満たされ隣  
り人となるべきです。そして、助けを必要としている人  
であればだれにでも近づき、助けることができる者とな  
りましょう。

## 研究資料

(小平徳行)

このたとえ話から、私たちが愛することによって隣人になることを学ぶ。

## テキスト

25 イエスを試みようとして 教えてもらうためでなく、どのように答えるかを見てイエスの知恵を試すため。何をしたら永遠の生命が受けられましょうか 永遠の生命を受け継ぐことは、当時のラビたちにとって一般的な神学的問いであった。「何をしたら」と問うているところから、律法学者は、行ないによる救いを考えており、神の恵みを理解していなかったことを示している。

27 律法学者は申命記6・5とレビ記19・18を引用して答えた。イエスも一番重要な律法は何かと質問された時、同様に答えていることから(マルコ12・29〜31)、この律法学者は明らかに律法に対して深い洞察をもっていた。

29 自分の立場を弁護しようと思って この律法学者は確かに律法に通じていたが、実行する事に欠けていた。そのため、自分を弁護しようとした。隣り人 ラビたち

にとつてはユダヤ人同胞を意味した。レビ記19・18では、明らかにこの意味で用いられているが、同34節では、その地にいる他国人にも当てはめられている。

30 ある人 ユダヤ人であると考えてよい。エルサレムからエリコに下って この区間は約28キロメートルあり、標高差約千メートルを下る道で、ひっそりとした砂漠や岩地を通る。この道の強盗は有名で、特に一人で旅をする者を襲った。途中にマアレー・アドラーム(赤い坂)と呼ばれる場所があり、伝説ではそのあたりに強盗が出没して多くの血が流されたため、土地が赤くなったので、そう呼ばれているという。

31 ひとりの祭司が…この人を見ると、向こう側を通って行った 祭司は倒れている人の向こう側を通った。彼は律法にあるように、死体によって汚れることを避けるためと思われる(レビ21・1)。しかし祭司は「下つてきた」とあるように、エルサレム神殿での奉仕を終えて帰る途中であった。したがって実際は宮での務めを果たせなくなるといふ心配をする必要がなかった。もし明らかに生きていると判断できれば憐みを優先させるが、ほとんど死んでいるように見えたので、祭司は危険を冒そう

とはしなかった。

**32 レビ人** 祭司同様に汚されることを避けようとした。祭司とともにレビ人は、ユダヤ教の聖職者として率先して律法を実行すべき人として登場している。それゆえにこの両者の姿は、律法によって求められている儀式的なきよさを守ろうとして、律法が真に意図する愛をないがしろにする律法主義の真相を明らかにしている。

**33 サマリヤ人** 祭司やレビ人、律法学者が軽蔑し、差別した民でユダヤ人は彼らとの接触を避けた。ユダヤ人とサマリヤ人の間にある敵意の歴史から見て、襲われたユダヤ人を助けることが最も期待できないのがサマリヤ人であった。しかし襲われたユダヤ人を助けたのは、このサマリヤ人であった。**気の毒に思い(卅)スプランクニゾマイ** この言葉は「はらわた」から来ており「はらわたを突き動かされる」という意味である。サマリヤ人の行動のすべては、この思いのなせるわざであった。この言葉は、次週に登場する父親の「哀れに思つて」(ルカ15・20)や、キリストがあわれみを示される時に使われている(マタイ9・36、14・14、15・32、20・34など)。したがって、このサマリヤ人の中にキリストを読み取ることが

もできる。

**34 35 オリブ油とぶどう酒** オリブ油は傷を洗うため、ぶどう酒は傷口の消毒のためであり、両方を混ぜて軟膏として用いられた。**自分の家畜に乗せ** つまりサマリヤ人自身は歩かなければならなかった。**宿屋に連れて行って介抱した** このサマリヤ人は、襲われた人を宿屋に連れて行く事で自分の義務を果たしたとは考えず、続いて彼の世話をした。**デナリ二つ** 二日分の労賃だが、当時の食費から推計すると宿賃としては高額であった。さらに不足分の支払いまで約束した。彼は自分のできるすべてをしたのである。

**36 だれが隣り人になったと思うか** 隣人を愛するとは、愛するべき価値のある「隣人はだれか」と愛の対象を制限することではなく、たとえ敵であっても「隣人になって」愛することであると教えている。そのためにはキリストの愛に満たされることが必要である。

**参考図書** 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書注解』(いのちのことば社)。The IVP Bible Background Commentary: NT. Leon Morris, Luke (The Tyndale New Testament Commentaries)。

## 聖書

ルカ10・25〜37

## タイトル

親切なサマリヤ人（ラリーダー）

## 暗唱聖句

この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。

ルカ10・36

## 目標

助けを求める人々に、よき隣人として近づき助ける者となる。

## 導入

（松浦みち子）

今日はラリーダーです。夏休みの生活習慣からまだ抜け出せない人がいるかもしれませんね。しかし、背筋をピンと伸ばし、神様のみ言葉に集中しましょう。

お話をよく聞いて、イエス様の質問にしっかりと答えてくださいね。

## 隣り人とはだれのことですか？

イエス様が人々にお話しされるのを、じっと聞いていたある律法学者が、イエス様に語りかけました。この人はイエス様を試そうといういじわるな心をもって質問しました。「先生、何をしたら永遠の生命を自分のものとして受けることができるでしょうか」。イエス様は「聖書には何

と書いてありますか。あなたはどの読んでいますか」と言われました。すると、律法学者はすぐに「『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』、また、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』と書いてあります」と答えました。「あなたの答えはすばらしい、百点です。その答えのとおりに行いしなさい。そうすれば命を受けることができます。」と言われました。すると、律法学者は心の中で「ふん、そんなこと言われなくても自分は行ってるよ」と思っていたので、続けて、「では、わたしの隣り人とはだれのことですか？」と尋ねました。実は、律法学者の考えていた隣り人とは、自分の周りの家族や身近な人。自分の仲間のことだけで、それ以外の人は隣り人などとは考えていませんでした。

## よいサマリヤ人のたとえ話

イエス様は、彼の心を見抜き、彼を見つめながらたとえ話をされました。

ある人がエルサレムからエリコに向かう途中、寂しい岩だらけの山道を急ぎ足で歩いていました。「さあ、暗くなったらたいへんだ！ このあたりは強盗がよくでるらしいからなあ」。そんなことを思いながら歩いていると突然岩陰

9月

## 6日 礼拝メッセージ例

からワァーと剣や棒を振りかざした男たちが飛び出してきて、「おい、命が惜しけりや、金を出せ!」と叫びながら、旅人を襲い、棒でボカボカ殴ったり、ドンドンと蹴飛ばしたり、着ている服まで何もかも奪って逃げて行きました。「たつ、たすけてえ!」、旅人は「ウー、もうだめだー」ドタァと倒れて、起き上がる力もありません。死んだように倒れているところに、運よく神殿で神様に仕えている祭司が通りかかりました。「おやつ、だれか倒れているぞ。強盗にやられたんだ!」「アー恐ろしや、恐ろしや。」倒れている旅人に気付きながら、見ないふりして道の反対側をすたこらさつさと駆けて行つてしまいました。次に、レビ人がやってきました。この人も神様の働きをしている人です。「あつ、強盗にやられたな、たいへんだ!」この人も、旅人に声もかけずに道の反対側を逃げるように走つて行つてしまいました。「あーあ」旅人は体も心もズキズキ痛み、「もう、ここで死んでしまうのかなあ」と力なく横たわっていました。その時です。かすかにカッポカッポというロバの足音が聞こえてきました。その音はだんだん近付き、旅人が倒れているのを見つけると、急いで駆け寄り「こりやあ、たいへんだ!」と、傷を消毒し、オリブ油を塗って

包帯し、自分のロバに乗せて宿屋まで傷ついた旅人を選びました。その人はサマリヤ人でしたが、一晩中看病し、翌朝早く、ご主人にお金を渡して「この人をお世話してあげてください。費用が余計にかかったら、帰りがけに支払いますから」と言つて出かけて行きました。

## 隣り人になる

イエス様は、話し終わると、「この三人のうち、だれが隣り人になったと思うか?」と尋ねられました。律法学者は「強盗に襲われた旅人を助けてあげた人です」と答えました。「そうです。あなたも行つて同じようにしなさい」と言われました。当時ユダヤ人とサマリヤ人は仲の悪い間柄でした。しかし、助けたのはサマリヤ人でした。あなたの隣り人とは、あなたの助けを必要としている人のことです。隣り人になることはたやすいことではありません。しかし、イエス様を信じるとき私たちの心に神様の愛が注がれ、隣り人を愛するやさしい心が与えられるのです。よき隣り人になれるよう、祈りましょう。

♪ 小さいわたしの ♪ (ホ14)



# 聖書 ルカ10・38〜42 テーマ 無くてならぬもの

## 序論

(福井文彦)

イエスの一行がエルサレムに向かわれる途中、ベタニヤの村に住むマルタとマリヤの二人の姉妹の家をお訪ねになったことです。二人は主に対して対照的な行動をとりました。そのとき、忙しさに気をいらだて、腹を立てた姉のマルタに対して、静かにイエスは、〈無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである〉と言われました。

## 一、マルタとマリヤ

イエスが村へ入られると、マルタは主の一行を家に迎え入れました。しかし、この訪問は突然のことではなく、予定されていたことだと思われまます。そこで今までイエスのために接待の準備をしていたマルタは、再び準備を始めたのです。

〈ところが、マルタは接待のことで忙がしくして心をとりみだし〉とありますから、姉のマルタだけが、料理などの準備をしていたように見えます。ところが、文語

訳聖書には「主よ、わが姉妹われを一人のこして働かするを、何とも思ひ給わぬか」とあります。ここに、「われを一人のこして」とありますから、イエスをお迎えするまで二人一緒に接待の準備をしていたのです。

しかし、イエスをお迎えしてマルタは台所に行き、再びイエスの接待の準備を始めたのです。一方のマリヤはイエスのお話を聴くことを選取り、そのまま〈主の足もとにすわって、御言に聞き入って〉いました。ところが、マルタは忙しくて、接待の準備が思うようにはかどらないために気をいらだて、マリヤとイエスの両方に腹を立てたのです。

## 二、無くてならぬもの

マルタは〈イエスのところにきて〉、〈主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思いになりませんか〉と、イエスとマリヤの二人を非難しました。自分だけ働かせて、一人イエスの足元にすわっているマリヤもマリヤだが、それを許しておられるイエスもあんまりだ、と非難しました。さらに〈わたしの手伝いをするように妹におっしゃってください〉と、イエスに対して命令したのです。本当は彼女が命じられるべき存在で

あるにもかかわらずです。

そのときイエスはおっしゃいました。「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである」。

マルタはいろいろなとてなしのために気が落ち着かずにいました。そこでイエスは本当に必要な食事はわずかです。いや一つだけです。それはみ言葉を食べること、すなわち、み言葉に聴くことであると言われたのです。

### 三、み言葉に聴く幸い

それではみ言葉に聴く幸いとはどのようなものでしょうか。

①み言葉はいのちを与えます。イエスは「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」(マタイ4・4)と言われました。人は神のことばによって養われ、支えられ、初めて真のいのちに生きることが出来ます。

②み言葉によって成長します。「今生れたばかりの乳

飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救いに入るようになるためである」(1ペテロ2・2)。「それによっておい育ち」が新改訳では「それによって成長し」とあります。み言葉によってクリスチャンは成長するのです。

③み言葉に聴従するとき勝利、祝福があります。み言葉に聴従するとは、み言葉を心に貯えて、私たちの人生が心の中にあるみ言葉によって律せられて行くことです。そのとき、勝利、祝福、繁栄があります(ヨシユア1・7・8)。

④み言葉によってみこころを知ることです。マリヤは、「高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた」(ヨハネ12・3)のです。マリヤはみ言葉を聴いて、みこころを知り奉仕したのです。

### 結論

クリスチャンにとって最も大切なことはみ言葉に聴くことです。そのため、聖霊によって生活を律し、デボーションのときを確保することです。

## 研究資料

(宮澤清志)

説教を語るに際しては、当該個所のみに目を留めるのではなく、その前後の個所にも注意深く目を通すべきである。特に、この個所においては先週語られた「よきサマリヤ人のたとえ」(25・37)にも十分目を通して備える必要がある。なぜなら、「よきサマリヤ人のたとえ」と今回の聖書箇所とは相補的な関係に立っており、両者とも「『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』(10・27)という、律法学者の回答を具体的に見せた物語として描かれているからである。「よきサマリヤ人」「マリヤ」ともに「神の御言を聞いて行う者」(8・21)、すなわち弟子の模範として描かれており、両者の行為は両方共に主の弟子としては欠かしてはならないものである。

もう一つ、この個所の主人公である「マルタとマリヤ」の人物像である。今回の聖書箇所その他にヨハネ11・1・54と12・1・11にも同時に目を通して頂きたい。すると、マルタは「イエスがこられたと聞いて、出迎えに行っ

た」が、マリヤは「家ですわっていた」(11・20)。またマルタは「給仕をしていた」(12・2)。見事に今回の箇所と一致する。更にマリヤは「高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた」(12・3)ともある。主の足もとに座って御言葉に聞き入るにせよ、ナルドの壺を一撃のうちに割るにせよ、それらはマリヤにとっては主に対する愛の表れであったことに注目したい。と同時に、その行為は周囲の人々の憤激を買う非常識な行為と思われたことも付記したい(ルカ10・40、ヨハネ12・5)。

## テキスト

**38 ある村** 「ベタニヤ」のこと。マルタとマリヤの家は、このベタニヤにあった(ヨハネ11・1、18)。

**39 主の足もとにすわって、御言に聞き入っていた** マリヤのこの行為は、弟子としての行為である(申命記33・3、使徒22・3「ガマリエルの足もとで」が直訳)。「足もと」とは、弟子の位置であり、当時、ユダヤ教の教師(ラビ)たちは、女性が「ひざまずく」こと、つまり弟子になることを許しはしなかったたのである。このことから、マリヤは自ら男性と同様に振る舞っていたのであり、

このことがマルタの怒りを増幅させたとも考えられる。マルタはこの当時の常識的な考えにとらわれていたのである。ちなみに「足」とは神による勝利者をあらわす言葉であり、ひれ伏すべき「足」であり、また教えを請うべき「足」という意味も持っている。

**40 接待** (ギ)ディアコニア) 文字通りには「奉仕」であり、「もてなし」(新改訳、新共同訳)、「手厚き奉事」(新契約聖書)等と訳されている。ルカはこの言葉に心をとらみだし (ギ)ペリスパオー) を入れることによって、否定的に捉えている。またこの語は、「まわりへと引かれる」という意味を持つ言葉でもあり、マルタは多くの奉仕へと引かれていたのである。

**41 心を配って** (ギ)メリムナオー) その人の実存に関わる重要な事柄が心をとりにする、というような意味を持つ。心の分割、分散をも意味する言葉である。思いわずらっている (ギ)ソリュバゾー) 混乱させる、という意味。外側の動揺をあらわす言葉である。受動文であり、多くのことによつて心乱されていることを、「心を配る」と重ねることによつて更に強調した文章である。

**42** 多くの翻訳のある言葉である。方 (ギ)メリス) 分

け前、(食事の)分量、という意味の言葉。マルタは自らの義務を果たそうとするあまり、イエスの教えを傾聴することを拒んだ。イエスを囲む「持ち分」のために、せつせと立ち働いていたのである。他方マリヤは「良い方」を選択したのである。マルタはイエスに、彼の取るべき行動を指図しようとする。他方マリヤはイエスに、彼女が何をすべきかを語ってもらおうとしたのである。この差は大きい。私たちも、しばしばマルタのように、主に指図をするという大胆にも大きな罪を犯してしまうことがある。しかし、私たちがすべき事は、他のすべてを脇に置いて、イエスの教えに聞き入ることである。これがすなわち「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』(27)という新約の律法を成就すること。そして、このことは「取り去ってはならないもの」(42)なのである。

**参考図書** A・M・ハンター「イエスの譬えの意味」(新教出版社)。A. T. Robertson, Word Pictures in the New Testament Volume II. The Gospel According to Luke (Broadman) 他

## 聖書

ルカ10・38〜42

## タイトル

イエス様の御声を聞こう！

## 暗唱聖句

無くてはならぬものは多くはない。いや  
一つだけである。ルカ10・42

## 目標

人間にとつてなくてはならないこととして、み言葉に聞く。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんの生活は忙しいですか？ 学校が終わってから、塾や習いごとがあり、帰りが遅くなることもあるでしょう。そして、あつという間に一週間、一か月、一年が経ってしまうものです。忙しいことは悪いことではありませんが、注意しないと目の前の事に心が奪われて、本当に大切なことが後回しになってしまふことがあります。皆さんに勉強や習い事も大切ですが、それ以上に大切なことを忘れていませんか。

## イエス様の御声が聞けないマルタ

ある時、イエス様がマルタとマリヤの家を訪問されました。もし、プロ野球選手やプロサッカー選手、または、ジャニーズの人たちが皆さんの家を訪ねて来たらどうで

すか。心臓が口から飛び出るくらい緊張しながらも喜んで家を掃除するかもしれません。また、どんな話をしようか、どうしたら喜んでもらえるだろうかと一生懸命に考えて、おもてなしをするでしょう。

マルタもそうでした。マルタは、イエス様に自慢の料理でもてなそうとしたのかもしれませんが。台所に立って腕をふるっていました。包丁の音も何かりズミカルに聞こえてきます。

しかし、途中からマルタの様子が変わってきました。喜びに満ちていたはずのマルタが、だんだんとイライラしてきたのです。それは、マリヤが手伝いもしないでイエス様の言葉に耳を傾けていたからです。そして、マルタのイライラが最高潮に來たとき思わず、「イエス様！マリヤは、わたしだけに接待をさせています。イエス様、何ともお思ひにならないのですか！ マリヤに手伝うように言うてくださいよ！」とマルタは、イエス様にそのイライラをぶつけたのです。その時、イエス様は「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに心を配って思わわらずにいる」と言われました。

実際にマルタは、イエス様をもてなすことに頭がいっ

ばいになっていたため、イエス様が本当に喜ばれることが何だかわからなくなっていたのです。

皆さんは、忙しい生活の中で、どれほどイエス様に心を向けていますか。イエス様は、あなたが特別なことをする以上に、「わたしの声を聞いて欲しい」と願っております。

### イエス様の御声を聞くマリヤ

思いわずらいイライラしているマルタにイエス様は、「無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ」と言われました。マリヤが選んだものは、無くてはならないものでした。皆さんの無くてはならないものは何ですか。

イエス様が言われた「無くてはならぬもの」とは、イエス様のみ言葉だったのです。聖書の中に「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る1つ1つの言葉によって生きる」とあります。私たちが生きて行くには、どうしても食べ物が必要です。しかし、もう1つ必要なものは心の食べ物であるイエス様のみ言葉なのです。

イエス様のみ言葉は、私たちの心を豊かにします。豊かな心とは、神様の愛が分かる心、神様の愛に応える心、

自分を愛するように隣人を愛する心、神様の喜ばれることを進んで実行しようとする心です。

イエス様は、皆さんに「私の言葉を聞いて欲しい。そして、心に豊かな人になって欲しい」と願っております。

では、どのようにしてイエス様の御声を聞くことができるでしょうか。それは、聖書のみ言葉を通してです。聖書には、イエス様が私たちに伝えたいことや心の栄養がいっぱい詰まっています。マリヤはマルタと違って、イエス様の御声を聞く良い方を選びイエス様に褒められています。

### まとめ

忙しい中にあっても、マリヤのように少しでもイエス様の御声を聞くことを選びましょう。一人で聖書を読むことが難しければ、お父さんやお母さん兄弟と一緒に読みましょう。または、み言葉カードを繰り返し読みましょう。子ども聖書日課も助けてくれます。

必ずイエス様が、あなたの心を豊かにしてくださいませ。

♪お話しください♪ (ホ 81)



# 聖書 ルカ11・1～13 テーマ 切なる祈り

## 序論

(福井文彦)

最初弟子たちは、イエスの素晴らしい説教とみわざだけが覚えていました。ところが、ずっと一緒に生活しているうちに、イエスのもう一つの姿が見えてきました。それはイエスの祈る姿です。そして、実は、イエスの大きなみわざはこの祈りに支えられていることを知ったのです。それで弟子の一人が、〈主よ、わたしたちにも祈ることを教えてください〉と願い出ました。そのときイエスは切に祈ることを教えられたのです。

## 一、模範的な祈り

そこで、イエスは弟子たちに模範的な祈りを教えられました。それが2～4節です。それは五つの嘆願からなるとても短いもので、同時に、個人の基本的必要をすべてカバーしています。その内容は①〈御名があがめられますように〉。これは、「神の聖なる御名が礼拝され、賛美されるように」という祈りです。②〈御国がきますように〉。これは、「神の国、すなわち神の支配が実現し、

神だけが全世界の王となつてくださるように」という嘆願です。

続く3～4節は、クリスチャンが2節の二つの祈りを実践するうえでの必要を求めた祈りです。③〈わたしたちの日ごとの食物を、日々お与えください〉。これは、「私たちの霊肉に必要な、欠くことのできないものを日々お与えください」との祈りです。④〈わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもゆるしてください〉。これは、心のありのままを申し上げて罪の赦しを乞う祈りです。⑤〈わたしたちを試みに会わせないでください〉。これは、「私を罪の力、犯罪の力、誘惑の力に会わせないでください」との祈りです。主のこの教えのように私たちも祈ることです。

## 二、しきりに願う

そこでイエスは一つのたとえを話されました。ある人に夜中に友だちが訪ねてきました。中近東は、昼は暑いために、夜になってから移動をするので、夜中に家に着くことがあるようです。その友は空腹でしたが、家には何もありませんでした。そこで、真夜中に近くの友人の門をたたいて、パンを三つ分けてくれるように頼むので

す。

当時の庶民は、キルティングのようなものを、土の床に置いて、全家族がその上で寝て、大きな毛布で全員をおおうものでした。このとき、友人は、子どもたちと共にすでに寝ていましたから、もし彼がパンを探し、分けてあげるために起き上がると、全家族をわずらわすことになります。そこで彼は断りました。それは無理からぬことでした。

ところがイエスは言われたのです。へしかし、よく聞きなさい、友人だからというのでは起きて与えないが、しきりに願うので、起き上がって必要なものを出してくれるだろう。ここで、イエスは祈りこそ神の恵みを受ける手段であり、へしきりに願う。忍耐強い祈り、祈りにおける根気強さの必要を教えられたのです。

### 三、神は祈りを聞いてくださる

5～8節のたとえは、神を根負けさせるような激しい祈りの勧めと誤解されることがあります。しかし、ここで教えられていることは、神が祈りを聞いてくださることの確かさです。そのことはこのたとえの教訓として教えておられる9～10節から明らかです。

イエスは〈求め〉でも、答えが得られなければ、もつと熱心になつて〈捜〉すべきである。それでもなお、答えが来なかったならば、結果を得るまで、死に物狂いで〈たたけ〉、そうすれば希望がかなえられる、と教えられました。友人関係を土台にして、〈しきりに願う〉のでパンが与えられます。ましてや私たちが神を父と呼ぶ父子関係を土台にして〈しきりに願う〉（厚かましく願う）なら、神は忍耐深い祈りに心を動かしてくださり、聞いてくださるのです。

このような祈りに対する神の恵みの確かさは、11～13節のもう一つのたとえで一層明確に教えられています。人間の父親であつても、子どもに良い物を与えんとするならば、まして、天の父は、求めて来る者に、人間の父よりもはるかに良い物（聖霊）をくださらないはずはないのです。

### 結論

イエスは、弟子たちに模範的な祈りを教え、神がいつも祈りに答える用意があり、また必ず答えてくださることを保証することによって、彼らに祈り続けるようにと励まされたのです。

## 研究資料

(宮澤清志)

## テキスト

## 2-4 主の祈り

並行記事としてマタイ6・9-13の主の祈りの記事がある。マタイの並行記事もよく目を通しておくことが望ましい。

2 父よ 直訳すれば「お父ちゃん」という呼びかけである。ここに見られる祈りは、父なる神に、家族的親密さをもつて近づくことのできる特権をクリスチャンは与えていることを示す。**あがめられ**（ギ）ハギアゾー）聖とされる、という意味の言葉。神への奉仕のために世俗のものから引き離すことを意味する。**御国** 神の恵みの支配。空間的領域的なものではなく、関係的概念である。

3 **日々お与えください** この祈りは、「毎日与え続けてください」と理解できる。

4 **罪** マタイの主の祈りでは「負い目」となっている。ルカはこの福音書を異邦人向けに書いたのであって、ルカの心中には、おそらく異邦人には罪という言葉の方が身近であると感じたのではないかと考えられる。**わたし**

たちを試みに：一般的に、罪を犯す危険を伴った誘惑のある状況についての嘆願と解釈すべきである。

5-8 **真夜中の友人** この箇所はルカ独自の記事であり、祈りについてのルカの3つのたとえ話の中の一つ（他の二つは18・1-14）である。

5 **あなたがたのうちのだれかに** この中の「だれか」は、原文では疑問文であり、「あなたがたのうちで、だれか」と訳すことができる文である。当然、その答えとしては「誰もいない」という否定的なニュアンスを持つことを前提としている。すなわち、このたとえ話の主人公は、私たちの想像を超える強引な求め方をしているのである。**パンを三つ貸してください** 「パンを3つ」とは、ひとりが食する一日分の分量。また「貸す」とは、商取引上の、いわゆる「利子を付けて貸す」（6・34）とは異なり、友情における貸し借りのことである。

6 パレスチナでは、日中の暑さを避けるために、夕方から旅を始めることはごく普通のことであったようである。また、村人の生活は、どの家庭にどのくらいパンが残っているかを知っているほどの近所づきあいの中で生活をしていった。

7 この家人は、パンの貸し借りそのものを否定しているのではない。当時の戸はかんぬきで締められており、そのかんぬきをはずすことは大変だったろうと思われる。またかんぬきを外す音によって同じ部屋に寝ていたであろう子どもたちが起きてしまうことも危惧された。しかし、友人は、それを承知の上で夜中にやってくる。この両者の信頼関係がこの物語の背後にはあるのである。

8 しきりに 原語では「厚かましく」「恥知らずに」という意味を持つ。この友人は、願うことにおいては厚かましかったのである。彼の隣人は、この友人が、友人であるということでパンを貸したのではなく、彼の厚かましき、図々しさに根負けしたのである。

9〜13 次に続く箇所は、これまでの真理をさらに展開する。この箇所は、三つの格言（求めよ、捜せ、門をたたけ）と二つの問いとからなる。これらの問いは、父親の我が子に対する優しさを、父なる神の、更により大きな恵みと対比する。そして、「天の父はなおさら」（13）という結論へと達する。なお、この箇所は、並行記事としてマタイ7・7〜11がある。ここも参照して頂きたい。

9 求めよ この言葉はしばしば祈りの文脈の中で用いられている（マタイ18・19、マルコ11・24、ヨハネ11・22他）。捜せ この言葉は、しばしば神とその救いとを求める文脈の中で用いられている。またそれらは祈りへと導かれるものである。門をたたけ ラビ文書においては、通常祈りの暗喩的表現として用いられていた。

11〜12 この箇所はマタイ7・9〜10に並行記事が登場するが、相違点がある。しかし、いずれにしても、両者の話の論旨に影響はない。

13 この箇所にはもう一つ、マタイとの相違がある。それはルカでは 聖霊 と書かれてある個所が、マタイでは「良いもの」と訳されていることである（11）。ここでは聖霊とは、祈りがきかれて与えられる賜物としての聖霊である。

参考図書 9月13日分と同じ。

## 聖書

ルカ11・1～13

## タイトル

求め、捜せ、たたけ！

## 暗唱聖句

求めよ、そうすれば、与えられるであろう。  
ルカ11・9

## 目標

切なる求めをもつて祈る。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんは、親に泣きながら、しかも手足を床にバタバタさせながら「あれ買って！ 買って！」とねだったことはありませんか？ 本当に欲しいものは、一生懸命求めるものです。皆さんが今一番願っているものや、願っていることはなんですか。それを父なる神様に真剣に祈り求めていますか？

神様は、真剣に求める祈りに応えてくださいます。

## 祈りを教えてください

皆さんは「イエス様はどんな方ですか」と聞かれたら、どのように応えるでしょうか。「奇跡を行う方」「すべての人を愛した方」「私たちを救ってくださる方」など、あげればきりがありません。イエス様は、お祈りを愛し、実際に毎日お祈りを欠かさない方でした。

今朝の個所にも「イエス様が祈っておられた」とあります。イエス様は、祈りを通して神様と親しく交わり、そこから力や慰め、そして支えを与えられました。

イエス様が祈り終わると、弟子がイエス様に「祈ることを教えてください」と言ってきました。

そこでイエス様が教えられたのが、主の祈りでした。

この祈りは、皆さんも教会学校で毎週祈っているでしょう。これは、イエス様が教えてくださった大切なお祈りです。

祈りは「・・・してください」と、お願いだけではありません。神様への賛美があります。私たちもこの主の祈りを手本として、もつと神様を賛美し、また心からの願いを祈りに込めてお祈りしましょう。

祈る人は、豊かな神様の祝福を受けます。

## しきりに祈り求める

イエス様は、弟子に主の祈りを教えられた後、一つの例話をされました。それは、真夜中に友人のところへパンを借りに行った人のお話です。

もし、皆さんが寝ている時、友だちから電話かメールで「悪いけど、今から明日の朝食食べるパンを貸りに行っ

9月

## 20日 礼拝メッセージ例

てもいい？」としつこく連絡されたらどうしますか？

イエス様は、パンを頼まれた主人は「しきりに願うので、起き上がって必要なものをだしてくれるであろう」と言われました。そして「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである」と言われました。

この「求め、捜せ、たたけ」は、求める思いがだんだんと強くアピールされています。

例えば皆さんが、暑い中を外に出かけたときです。あまりの暑さに喉が渴いてきました。すると何か飲み物を求めるでしょう。そして、近くにある自動販売機に行つて自分の欲しいものを捜すでしょう。もし、あつたならお金を入れて買うでしょう。

そのように、求め、捜し、たたくとは真剣に求める姿を表しています。私たちが神様にパンを借りに行った人のように、しきりに求め、捜し、たたくことをイエス様は求めておられます。

私たちのお祈りが口先だけのものではなく、神様に真

剣に求めるお祈りでありますように！

### 祈りは応えられる

皆さんは、多くの貧しい人たちに神様の愛をもつて仕えたマザー・テレサを知っているでしょう。彼女はある時、多くの困っている人を助けるために使っていないビルを借りようと思いました。しかし、政府から断られたのです。それでもマザーはあきらめず、真剣に祈り続けました。すると不思議なようにその場所を借りることができたのです。しかも「無料」でした。

神様はお祈りに必ず応えてくださいます。

パンを借りに行った人は、来客のために夜中に友人の所へ行きパンを求めました。自分のために祈ることも大切ですが、友だちや家族の必要のために真剣に祈る者にされましょう。それが、隣人を愛することです。

### まとめ

皆さんのどんなに小さなお祈りでも、神様は耳を傾け、それに応えてくださいます。神様に遠慮しないで求め、捜し、たたきましょう！

♪祈ってごらんよわかるから♪

(新聖歌481、PW7、イン70ほか)



# 聖書 ルカ11・37〜44 テーマ 内面のきよめ

序論

(石田高保)

現代は見た目を極端に気にする社会である。テレビコマーシャルを二、三見るだけですぐにわかる。女性は自分をいかに色白に、若く、やせているように見せるかに汲々とするよう企業にあり立ててられている。男性の場合は自分の容貌や体型や服装にそれほどこだわらない。しかし自分の社会的地位や財産、人脈や権力や肩書で自分を実体よりも大きく見せようとする傾向が強く、見栄を張ったり、大言壮語したり、巧みに自慢したりしやすい。つまり女性も男性も自分の見た目を気にしていることには変わりない。外側を整えさえすれば、内側はどうであつてもかまわない、誰に迷惑がかかるわけでもないからという思いは、老若男女の区別なく潜んでいるものかもしれない。

## 一、人の関心は外見に

この個所の出来事は直前にあるイエス様の説教と関連づけられるように思われる。「内なる光が暗くならないように注意しなさい」(35)、心が曇るとモノの見方も歪んでく

ると言っておられるようである。パリサイ人はイエス様が食前に手を洗わないのを見て、なぜ先祖からの言い伝えに従わないのかと怪しんだ。当時の人々からイエス様はラビ(教師)と見なされていたので、いやしくも人を教える立場の者が食事のしきたりに従わないことはパリサイ人にとって信じがたかった。良識ある人間ならば、立ち居振る舞いにおいてルールにかなっているべきと考えたわけである。それはよいとしても、彼らは見えるところのありようだけに関心を持ち、肝心かなめの内なる心の状態については滑稽なほど無関心であつた。そればかり彼らは正統性のある律法ではない先祖からの言い伝えや掟によつて庶民を縛り、さばき、虐げてきた。主はこの二律背反的で神を欺く規律を痛烈に批判する。(あなたがたの内側は貪欲と邪惡とで満ちている)と言つて、彼らの内面にこそ問題のあることに関心を向けさせている。

形式を重んじるあまり本質を見失うことを「はんぶんじやれい繁文縟礼」と言うが、まさにパリサイ人の行動様式に当てはまる。主は「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない」と、文字によつて人を殺してはならないと言われた(マルコ2:27)。神の言葉から逸脱し、人間の

考えた掟によって人を縛り、巧みにコントロールすることは罪深い行いである。み言葉を自分の都合に合わせて解釈し、隣りに人に適用しようという誘惑を受けることは、クリスチャンならではのこと。

## 二、神の関心は内面に

「あなたがたは、神を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身に着けるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである」(1ペテロ3:3-4)。現代から見れば何とも古臭い感覚に思えるかもしれないが、女性の適度な身だしなみやおしゃれを否定しているわけではない。外見で自分を人より優れた者になろうとする傾向を戒めており、内面の美しさに価値を求めるように言っている。立ち居振る舞いや所作動作がきれいなこともいいだろう。茶道などはそれを極めている。しかし人格の美しさの足元には及ばない。私たちはキリストによって100%神に受け入れられている神の愛する子どもである。イエス様を受け入れた時、漏れなく「御霊の実」、品性の実が未熟ながらも与えられており、イエス様のような人格に近づく力が聖霊によって備

わっている。

キリストに近づくと言っても、私たちの個性は決して否定されず、むしろそれは引き立てられる。野菜サラダに塩を一振りしただけで、それぞれの味が引き立つように。クリスチャンとしての成熟とは、「キリストらしく、自分らしく」なされるものである。クリスチャンらしくあるというのは、キリストにあって自分らしくあるということで、どこを切っても金太郎飴になることではない。他のクリスチャンのようにならなければならないものでもない。なにしろ神にとつて私たちは唯一無二の存在であり、神は私たちの内なる本当の姿、神のかたちにくる奪われておられる。「あなたの顔を見せなさい。あなたの声を聞かせなさい。あなたの声は愛らしく、あなたの顔は美しい」(雅歌2:14)。

## 結論

私たちは外見に集中する傾向があるため、内面の問題はおろそかにしやすい。だからこそ、外なる人により頼むことをやめ、内なる人こそが神のご覧になる本当の自分であることを確認し続けよう。

## 研究資料

(金井由嗣)

## 背景

主イエスとパリサイ派は重要な関心を共有している。それは神の民の聖性、すなわち神の民を他の民から区別する特徴は何かということであり、パリサイ人らが主イエスの教に興味を持っていたのもそのためである。しかしパリサイ派はそれを儀式的浄さに求めたのに対し、主イエスは神への愛と隣人への愛による道徳的態度に求めた(ボウカム、グリーン)。両者の間にはこの点での決定的な違いがある。なお、パリサイ派(人)とは律法の順守とそのため儀式的浄さを特に重視するユダヤ教の一派である。パリサイ派の律法学者も多く存在していたが、すべての律法学者がパリサイ派だったわけではない。

## テキスト

37 あるパリサイ人が：「**食事**をしていただきたいとルカは5章から7章にかけて、主イエスとパリサイ人や律法学者との論争や対立を記している。両者の関係が悪化していた時期に食事に誘われることはやや意外である。7・36〜50にも同様の記事があるが、ここでは主人のバ

リサイ人は通常のもてなしをしなかった(7・44〜46)ことが示されている。必ずしも好意的な誘いではなく、イエスに論争を挑んでやり込める意図があったかもしれない。10・25では律法学者が「イエスを試みようとして」質問したとあるが、この食事の席には律法学者たちもわざわざ同席しているのである(45以下)。

38 **食前にまず洗うことを** [ギ]バプティゾーが用いられている。宗教的な浄めの儀式を指している。不思議に思った 新改訳は「驚いた」。内心でというより派手な動作を伴う驚きの表現であった。パリサイ人の常識から見れば、食前の浄めの儀式を抜きにして食べ始めることはそれほど意外なことだった。あるいはイエスと弟子たちに対する非難のニュアンスも込められていたかもしれない。

39 **杯や盆の外側を** ここでの「の」は同格の言い換えで、「杯や盆といった外側のものを」と読んだほうが良い。**きよめる** [ギ]カタリゾー。儀式的な洗いを指している。**あなたがたの内側は** 「内側」は主語となっている。「その一方で内側といえは」と訳せばよい。**貪欲と邪惡とで満ちている** 「貪欲」[ギ]ハルパゲーは直訳すると「強奪」(新改訳)。ここでは**邪惡**[ギ]ポネーリア(新共同訳「悪

意」と並んでいるので、「他人の物を奪い取ろうとする本能」を意味すると思われる。

**40 愚かな者たちよ** パリサイ派は聖書（律法）の学習に熱心な人々であり、神に近い生き方を自負していた。この言葉はひどい侮辱と受け取られたであろう。**外側を造ったかたは、また内側も造られたではないか** 主が非難した彼らの「愚かさ」は、神のご性質についての根本的な誤解を指している。神はこの世界だけでなく内なる人（霊）の創造者でもある。きよさは外側の物質や行為ではなく、内側の靈性にこそ求められるのである。

**42〜44 あなた方パリサイ人は、わざわいである** 同じ表現が3回繰り返しされている。外面的儀式的淨さによって神に認められようとするパリサイ人の偽善に対する徹底的批判である。「災い」〔ギ〕ウーアイは旧約における預言者の語り口を反映している（例、イザヤ5・8〔22〕）。**義と神に対する愛** 義〔ギ〕クリシスは通常「裁き」と訳される。ここでは裁きの基準になつた正しい行為。立派な献げ物との対比からは、それらを貧しい人々に分け与える愛の行為を要求しているものとみなすべきである（マーシャル）。隣人愛が神への愛と並んで要求

されていることは、善きサマリア人のたとえ（10・25〜37）に通じている。**それもなおざりにはできないが** 主イエスは儀式的行為の価値を否定したわけではなく、神への信仰が心からの神への愛と隣人愛に結びつくことを要求したのである。**会堂の上席や広場での敬礼** パリサイ人の宗教的行いが他人の評価を得るための偽善となつていることを非難している。会堂〔ギ〕シユナゴーグはユダヤ教の礼拝施設、広場ギアゴラはギリシャ風の都市で人々が集まる広場。集会所や市場としても機能していた。**人目につかない墓** マタイ23・27では「白く塗つた墓」。内側に汚れを隠しつつ外側を飾る態度を例えている。死体に触れないことは、パリサイ人たちが重視する祭儀的なきよさの中でも特に重要だった（ボウカム）。その彼ら自身が人を汚す「墓」であり、しかも上辺の行いによって隠されているために彼らに近づく（教えに倣う）他人を汚す存在となつていっているという痛烈な批判である。

**参考図書** ボウカム『イエス入門』、クラドック（現代聖書注解）、モリス（ティンデル）、Green（New International Commentary）、Marshall（New International Greek Testament Commentary）。

## 聖書

ルカ11・37〜44

## タイトル

外側はばつちり！ でも、内側は？

## 暗唱聖句

ただ、内側にあるものをきよめなさい。

ルカ11・41

## 目標

心の内面をきよめる者となる。

## 導入

(和田 治)

「キスマイ、ちょっかつこい〜！」「きやり〜ばみゆばみゆってかわいい〜！」人気タレントは、よくそんなふうに言われてますよね。皆さんも、見た目をほめられたいなっと思うこと、ありますか。「外側」を整えたいと思うことは悪いことではありません。でも、もし「外側」ばかりを気にして、「内側」をきれいにすることを全然考えてないとしたら、かなりピント外れかも…。今日は、私たちにとって本当に大切なのが「見た目」なのか「心の内側」なのか、イエス様に教えていただきましょう！

## イエス様から叱られたパリサイ人

「私の家で食事をいっしょにしてください。」ひとりのパリサイ人がイエス様にお願ひしました。パリサイ人は、「きよい行いをし、ルールをきちつと守っている自分

たちこそ、神様に一番喜ばれているのだ！」と思っている人たちでした。イエス様はその人の家に入って、食事の席に着きました。「やや？ な、な、なんと！」その人は、イエス様を見て心の中でびっくり！ イエス様は食事の前に、「きよめの洗い」をなさらないではありませんか。パリサイ人だけでなく、ユダヤ人はみんな、食事の前に丁寧にルール通りに手を洗ってこそ、きよくなってお食事がいただける、と思っていたのです。

すると、イエス様はこう言われました。「なるほど、あなたがたパリサイ人は、コップやお皿の外側をきよめるし、きちんとルールを守って外側をより良く見せていますね。でもあなたたちの内側はどうでしょう。欲深く、意地悪で、汚れた思いでいっぱいです！ 愚かな人たち。神様は外側だけでなく、内側も造られたものではありませんか。外側の振る舞いばかりを気にして、『神様を愛し、周りの人たちに優しくすること』を後回しにしていますね。それではまるで、外側はきれいだが、中は汚い墓石のようだ。内側をこそきよくすべきですよ！」

## あなたももしかしてパリサイ人みたい…？

イエス様がどうしてパリサイ人をお叱りになったか、

9月

## 27日 礼拝メッセージ例

分かりますか？ ルールを守ることや、正しい振る舞いをすることは、良いことです。でも、パリサイ人たちは、外側だけを気にして、心の中を正しくきよくしよう、とは全然思っていないでした。弱い人や貧しい人たちをバカにして、「あんな奴らに近づいたら、こっちまで汚れてしまう！」と思っていたのです。これでは、愛の神様はお喜びになりませんよね。でも、ちよつと待つて！ あなたももしかして、外側からは絶対にわからない心の内側に、人を馬鹿にしたり、意地悪な気持ちが渦巻いていたり、嘘や憎しみが隠されていますか？ 汚いものがないでしょうか。毎週教会学校に来ていても、きちんとルールを守っていても、皆から「あなたは良い子だね！」って褒められていても、内側は実は違う…ってことはあるかもしれませんよね。もし外側だけを気にしていて、内側がほったらかしなら、パリサイ人みたい…。それではイエス様は悲しまれます！

### 内側をきれいに…！

「ん…。でも、内側をきよめるってどうしたらいいのかな？」まず、あきらめましょう、自分の力では内側をきれいにはできない！ だって。でも大丈夫！ イエス様

を信じている私たちは、もうすでに神様に受け入れられ愛されている「神様の大切な子どもたち」ですよ！ イエス様を心に受け入れた時、一人ももれなく、イエス様のような愛の人に近づいていく力が与えられているんです。私たちの内側にいてくださる聖霊は、私たちを造り変えてきよくしていくお力を持つておられるのです！

先週のメッセージを思い出してください。「皆さんのどんなに小さな祈りでも、神様は耳を傾け、それに応えてくださいます。神様に遠慮しないで求め、捜し、たたきましよう！」って教わりましたね。皆さんはこれまで、「どうか僕の、私の内側をきよくして下さい」「心をイエス様に似せて下さい！」って祈り求めたことがありますか？ 今日、そのように祈ってみましょうよ！ 十字架の上でイエス様は、私たちの罪をお赦し下さったばかりか、私たちの内側をきよくするわざをはじめて下さったのです。だから心から罪を悔い改め、内側をきよくしてください。ださるよう求めれば、イエス様が皆さんの内側をきよくしてください。さあ、信じて祈り求め、少しずつでも、イエス様に似る者にならなさい！

♪フリー♪ (PW56、イン40)



# 牧羊ひろば



## 大分福音キリスト教会 教会学校

### ●はじめに

当教会に私達（田代）の着任後、教会学校が再開して4か月が経ちました。これまでの様子を紹介します。

### ●学生会

前任の後藤師時代はJクラブという名で昔は水曜に、後半は月一度の子ども会の形で持っておられたそうです。

しかし、私達の着任後は継続できず、子ども教会学校がなく一年半が過ぎました。その間、日曜午後にはJクラブ出身の女子高校生の方との学生会がありました。お楽しみも

色々考えましたが、故森上先生が来てくださった時、その方が「聖書の続きが楽しみ」と話され、「そうか聖書が楽しいのか！」と原点回帰。それからは聖書を読み、賛美し、動画等を一緒に観たりして続いています。

教会では「教会学校が開かれるように」との祈りが積

まれていましたが、牧師夫人である筆者が産後疲れやすく、子どもが離れないこともあり、新たに教会学校を始めるのは牧師のやる気にかかっていると感じていました。又、会堂の一部が居住空間なので子ども達を迎えるにはそれなりの片付けと覚悟が必要と感じ、一年かけて片付けていきました。昨年二〇一四年秋は教会移転十周年で、新会堂を願う中、教会で「伝道せねば」との気運になりました。そんなある日、牧師夫婦の会話で、ある話題が出た時に、「その前にもつと死ぬ気で伝道してないとかんのんちゃう？」と妻。その次の役員会、田代師が「今年はこどもクリスマス会を開きます！ その後から教会学校を始めます！」と提言し、具体的に始まったのでした！

### ●こどもクリスマス会

12月6日こどもクリスマス会。子ども37名の出席。教会員の皆さんも焼き菓子やチャシ配布、看板作り、紙芝居と総出で協力くださいました。後藤師時代80人以上集ったことがあるそうで、70人分のお菓子を準備しまし

たが、この残ったお菓子が役立ちました。会に来なかった子どもが次の日教会に来て、お菓子を一つあげると、入れ替わり立ち替わりやって来たのです。今、教会に集う子達の多くは後でお菓子をもらった子ども達です。

## ● 第一回教会学校

クリスマス会の次の週の水曜日から月二回の教会学校が始まりました。牧師もはりきって賛美やプログラム、暗唱聖句を書いて準備しました。第一回には、クリスマス会に来た6年生2人と、後で教会に来た4年生1人が集いました。この6年生の一人Aちゃんと4年生のKちゃんが教会学校の核となりました。その後、Kちゃんは次々と友達を誘って来ました。第一回は松ぼっくりミニツリー工作をしました。その土曜日、低学年の男の子達が教会に遊びに来て工作を一緒にしました。この男の子達は放課後、預かり保育にいるため水曜の教会学校には来られません。冬休みには子ども達が毎日来ました。教会学校は、二月は0人の時も1人の時もあり、祈らされました。そんな中、Kちゃんが毎日のように18時頃まで教会にいるようになりました。弟のR君から親が

離婚したと聞きました。最初、姉弟とも情緒不安定な所もありましたが、来る度にとっても落ち着いてきました。

三月初めの教会学校は2分前まで誰も来ませんでした。「涙とともに種を蒔く者は」のみ言葉を思いながら、床に頭をつけて祈りました。と、時間になった時、わやわやと子ども達がやって来たのです！ Kちゃんが「友達呼びに行ってた！」と笑顔で入って来ました。10名の子どもで賑わいました。ところが、人数が集まるとまた問題も起きるもので、この日も6年のAちゃんが5年のKちゃんを泣かせて



3月の教会学校

しまい、Nちゃんが怒り、Aちゃんが来づらくなりました。また、涙して祈る日々でした。

### ●クレープパーティー

二月の終わり、春に子ども大会を開きたいとの願いが起こされました。6年生のAちゃんの卒業後、教会学校存続の危機を感じたからです。又、できれば、せっかくつながったAちゃんを核に中学生会を開きたいとの願いが起こされたからです。急遽、三月の役員会で決定しました。急な事で教会員の奉仕予定者は2名だけでした



クレープパーティ

が、Kちゃん達4、5年生がやる気になってくれました。

3月21日クレープパーティー。名簿によると99名の出席でしたが、会堂に入りきらず帰った子どももいて、実際は75名程の参加者でした。ゲーム・賛美・紙芝居、第二部はクレープ・綿菓子・ポップコーン。家庭用の綿菓子器を購入し練習する中で女の子達がスタッフ意識を持ち、当日自分達で朝十時に集合、下準備から本番まで活躍でした。卒業生にはギデオンの聖書をプレゼント。持ち帰りお菓子には教会学校と中学生会の案内を付けました。後日、スタッフ慰労会をしました。次の週、男の子達が学校で「愛をください」を歌っていたそうです。

### ●春休み、中学生会スタート、教会員との交わり

よく来る子どもの中に家族が他の宗教に通っているMHちゃんがあります。家族にどんなに反対されても来ています。MHちゃんに一番反対していた双子の姉KHちゃんが春休みから、友人達の計らいで教会に遊びに来るようになりました！ またよく来る子どもの中3年の姉Sちゃんが春休みから集い、中1になったAちゃんと日曜午後4時から中学生会を開く事ができました！ 聖書

を読み、賛美をし、タコ焼きをします。四月時点で3回開かれました。Sちゃんも友達を教会に連れて来ました。四月には教会のお花見に7人の子ども達が礼拝から出席しました。将来の教会の担い手となりますように！

### ●賛美とみ言葉

ピアノを習っていない子ども達が教会の電子ピアノで大抵「ねこふんじやった」を弾くのですが、賛美を覚えたとすぐに「愛をください」を練習し始めました。教会



教会お花見

学校でも伴奏してくれました。片手でメロディーを弾くのですが、一人では不安で二人で弾くので和音です！

放課後、預かり保育で学校に残り、そこから帰って僅かの時間で

も教会に来る子ども達もいます。遊ぶ時間がない時、その週の暗唱聖句を覚えてガムを一つあげます。以前に覚えた聖句も最初から順番に言ってもらいます。大きな声で唱えながら帰って行きます。あらゆる機会にみ言葉が心に植えつけられていく様にと願います。

(田代美雪)



春休み 餃子作り



●キリストの教え

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

7月5日

安息への招き マタイ 11:28〜30

同 28 節

12日

四つの種 マタイ 13:18, 23, 39

同 8 節

●キリストの教え

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

9月6日  
ラー・デー

親切なサマリヤ人 ルカ 10:25〜37

同 36 節

13日

マルタとマリヤ ルカ 10:38〜42

同 42 節

20日

切に求めて祈る ルカ 11:1〜13

同 9 節

27日

内面のきよめ ルカ 11:37〜44

同 41 節

16日

ソロモンの知恵 列王上 3:16〜28

同 28 節

23日

ソロモンの失敗 列王上 11:1〜13

同 9 節

30日

勧めを聞く耳 列王上 12:1〜16

箴言 12:15 節

●旧約⑥王

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

7月19日

従順の祝福 サムエル上 15:10〜23

同 22 節

26日

ダビデの油そそぎ サムエル上 16:6〜13

同 7 節

8月2日

ダビデとゴリアテ サムエル上 17:31〜49

同 47 節

9日

岩なる主への賛美 サムエル下 22:1〜7

同 2・3 節

## おわりに

『牧羊者』二〇一五年度第Ⅱ巻をお届けできますことを感謝します。また、執筆者のご労苦に感謝いたします。

教師養成講座は、神戸中央教会の田中恵子姉に「トッさんび・・・まず、あなたがいきいき! No.5「雑感」」を書いていただきました。「牧羊ひろば」は大分福音キリスト教会のCSを紹介していただきました。

今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

## 『牧羊者』のご購読・ご利用について

\* 分級用に、ワークA(幼稚園向け)、B(主に小学生1~3年生向け)、C(主に小学生4~6年生向け)を用意しています。また、付録として「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」、「中高科へのヒント」があります。いずれも、下記ホームページから無料でダウンロードできます。送付ご希望の方には、ワークは各600円+税でお送りします。  
信徒局 教会教育室 ホームページ  
<http://cs.jccj.info/>

\* ご注文は、日本イエス・キリスト教団(事務局)まで。申込み、部数変更等のための用紙も、上記ホームページからダウンロードできます。  
神戸市兵庫区塚本通3-3-19  
電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611

## 聖書講解 研究資料

石田高保師 小泉創師 福井文彦師  
鎌野善三師 金井信生師 金井由嗣師  
宮澤清志師 小平德行師 石田高保師  
辻林和己師 長田栄一師

## メッセージ例

中島啓一師 和田治師 飯田勝彦師  
水浦みち子師 土屋開夫師 後藤真師  
松野晶子師 吉田美穂師 佐川直実師

## ワーク(A)(B)(C)

勝田幸恵師 山下大喜師 野勢かほる師  
上森恭子師 田中裕明師  
石田高保師 後藤健一師 小野淳子師  
田中愛子師 金田ゆり師 金田ゆり師  
丹羽遥師 松浦あん師  
佐藤由香師 後藤栄子師

## 中高科へのヒント

フラッシュカード  
み言葉カード  
イラスト  
ワイプロ打ち込み

## ワイプロ打ち込み

多田豊子師 加藤清師 山田和幸師  
長田栄一師 中島啓一師

## また、事務作業・発送の教団事務所の兄姉、印刷の松木共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

聖書教育教案誌 牧羊者  
二〇一五年度 Ⅱ巻  
二〇一五年七月一日発行

## 発行所

日本イエス・キリスト教団 教会教育室  
企画監修 日本イエス・キリスト教団 信徒局  
印刷所 菱三印刷株式会社  
電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

## 印刷所

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

## 共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

## 共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

## 共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

## 共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

## 共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

## 共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

## 共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み

## 共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

電話 (078) 575-5511  
FAX (078) 575-6611  
\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み